北スラウェシ日本人会
NORTH SULAWESI JAPAN CLUB

日本人会会報

Tarsius

タルシウス

第29号

平成27年7月1日発行

「タルシウス」第２９号目次

１．コンビニが都会の香りを運ぶ	下村　まゆみ	2
２．Buah_Buahan	江田　直美	5
３．向かった先は北緯１度	高倉　清香	8
４．インドネシアのいいところ	大貫　周明	13
５．南洋真珠	今泉　　宏	15
６．マナド（インドネシア）の医療事情	中村高太郎	19
７．インドネシア版エアフォース・ワン	中村高太郎	26
８．インターネット速度改善術	中村高太郎	33
９．日本と日本人の七不思議	長崎　節夫	46
１０．編集後記		49
１１．会員名簿		51

コンビニが都会の香りを運ぶ

下村まゆみ

2015 年を迎えると同時にコンビニ出店ラッシュが始まった北スラウェシ。アルファマート、インドマートの 2 社が雨後の筍のどとく増殖し、あっという間にコンビニの虜となった私に長崎編集長から 「コンビニについて語れ」、との指令が下されました。

承知しました。独断と偏見を交えて語ってみましょう。

まずはコンビニの歴史の復習から。

（以下、日本経済新聞 2013/8/18 電子版『JKT48 も一役買うジャカルタのコンビニ戦争』からの引用です）

― コンビニは米国生まれの 24 時間営業の小型店舗だ。しかし、今から 40 年ほど前に米国から上陸したコンビニは日本のきめ細かな消費者のニーズに機動的に対応し、コンピューターによる正確な売れ筋の把握などでその経営ノウハウを磨き続けてきた。1990 年前後には米国のコンビニは急成長していたディスカウントストアに対抗して無謀にも同じ土俵の低価格路線で戦い、完膚なきまでに打ちのめされた。米国で「セブンイレブン」を運営していた最大手のサウスランド社（現セブンイレブン・インク）も破綻。日本のセブン―イレブン・ジャパンが中心となり同社を買収し経営再建に乗り出した。日米逆転の瞬間だ。だから、コンビニは日本流なのだ。―

北スラウェシで絶賛増殖中のアルファマート、インドマートは、共に地場系のコンビニですが、両社とも外観・内装などから日本のコンビニをモデルとしていることが判ります。

コンビニ進出以前のビトゥン（ギリアン方面を除く）には、スーパーマーケットが 2 軒だけ（無理やりスーパーと呼べそうな店を入れても 3～4 軒）。あとはパサール、商店、軒先営業のワルンでした。そこへ 2015 年 4 月時点で少なくとも 5 軒のインドマートと 2 軒のアルファマートが開店。現在に至っては、もう数えるのが面倒になるくらい方々で見かけるようになりました。

では、コンビニの登場により便利になった点、コンビニが頑張ればもっと便利りになりそうな点を書き出してみたいと思います。

1. <u>収納代行サービスの登場</u>

水道代、電気代、ケーブル TV 視聴料などがコンビニのレジで払えるようになりました。

電気代とケーブル TV 視聴料は銀行 ATM からも支払い可能ながら、庶民層の多くは郵便局を使うので、郵便局の窓口はいつも長蛇の列でした。銀行口座がない、口座はあるけど ATM 操作が分からない、そんな人でも郵便局と同じ方法で（これ重要）、曜日や時間を気にせずサクっと払える。いきなり半世紀先の未来へワープしたような劇的進化ではありませんか！（と、感動したのも束の間、水道代は水道局側の事情で未だコンビニ払いはできず、当面は従来通り水道局の窓口で支払うほかありません。）

収納代行サービスでは、公共料金等の支払いのみならず、国内線航空券や鉄道乗車券の購入もできるようです。思い起こせば、日本のコンビニが 24 時間営業のミニスーパーのポジションから真のコンビニエンス（便利なもの）へと進化したのは、収納代行サービス登場以後のこと。アルファマート、インドマートとも収納代行サービスを上手く活用し、北スラウェシにより多くの進化をもたらして欲しいと思います。

2. 品切れの緩和

ビトゥンに暮らすなかで不便なことの一つが『日用品の品切れ』です。品切れはマナドでも普通だよ、と思われるかも知れませんが、レベルが違います。我が家の愛用品で品切れの憂き目にあいまくる代表はマヨネーズ、コーヒー、ジャスミン茶、トマトケチャップなど。まるで申し合わせたかのように全てのスーパーから消えてしまい、次の入荷は 1 週間後なのか、3 ヶ月後なのか、神のみぞ知るの世界。でも今はコンビニへ行けば大丈夫。コンビニでは、たとえ欠品があっても、今のところ迅速に再入荷されています。

インドマートでは、店内のレジが本部と繋がっている、いわゆる POS システムを導入しているとのこと。恐らくアルファマートもそうでしょう。ビトゥンのスーパーも POS レジを使っていますが、売上在庫管理、売れ筋把握、仕入れ基盤などでコンビニの足元にも及ばないのは一目瞭然です。

3. 店員が及第点

インドマートの入り口ドアで“Selamat datang! Selamat belanja!”の声がけに初めて遭遇したとき、日本へ舞い戻ったかのような錯覚に陥りました。声がけが常にあるとは限らないところにインドネシアらしさを感じるものの、コンビニ店員のスキルは、従来のスーパーや商店の店員のそれより高いと断言できます。

陳列棚は整然としており、埃をかぶったまま並んでいる商品なんてありません。値札もひと目でわかります。頻繁に棚卸しっぽいことをしているので、先入れ先出しもされていると思われます。「〇〇ありますか？」と尋ねてから回答までに要する時間も対応も及第点。店員も誇らしげに「ここは日本式の店」と言ってました。「だからぁ、うちらはその辺のスーパーの店員とはレベル違うしぃ」とまで考えているかどうかは分かりませんが、日本式を謳うのなら、それくらいのゲンシ（gengsi）をもって務めて欲しいと思います。もちろん彼らを率いるオーナー諸氏や本部にも。

4. 特売の登場

ビトゥン在住の私は、たまにマナドへ行くと買い物が楽しくて仕方ありません。その理由は、ビトゥンにはない品物がたくさんあること、複数の店を回って比較検討ができること、そして何よりも心ときめくのが、ハイパーマートなどの特売です。

コンビニの登場で、ビトゥンにも特売が登場しました。アルファマート、インドマートとも、ハイパーマートのような特売カタログを出しています。ただ残念なのは、視覚にアピールしてこその特売なのに、

特設スペースに特売品の一部だけを置き、ノボリもなく、陳列棚に赤札なし、カタログも目につく場所にないことが多く、精算後にレシートを見て特売に気づくこともしばしば。もっとワクワクさせて余計なものまで買わせる勢いがないとダメですね。

また、特売対象外の商品でもスーパーより安い品物があります。そして面白いのは、同じインドマートでも店舗によって品物の値段が異なることです。

5. 冷えたジュースの登場

日本のコンビニ同様のジュース用冷蔵庫があり、いつでも冷えたジュースが買えるようになりました。アイス用冷蔵庫はスーパーと同じものですが、今のところは一旦溶けた後に再び固まったようなアイスはありません。今後もこの状態を維持して欲しいと思います。

そのジュース用冷蔵庫ですが、よく見ると裏側は壁になっていて、先入れ先出しには補充が大変そうです。裏側に扉がないのは、予算の都合なのか、スペースの都合なのか、いずれにしてもあのジュース用冷蔵庫こそ日本のコンビニの象徴だと私は感じているので、インドネシアのコンビニがそこを真似することができなかったのは少々残念です。

以上、ぱっと思いついた 5 点を挙げてみました。

コンビニが登場してから半年が経ち、もはやコンビニのある生活が当然になっています。ビトゥンのスーパーや商店は、コンビニの猛烈な出店をどう感じているのでしょうか？コンビニと同じ銘柄のパンを仕入れ、コンビニと同じ値段で売るようになったスーパーなどもありますので、一応敵情視察はしているようです。　　（完）

Buah-Buahan

江田　直美

インドネシアに住んでいて有り難いな～と思うことの一つに、一年中「果物が豊富」ということがあります。

バリ島ヒンズー教にとっても、果物はとても重要なようです。供物の一つとして、果物は欠かせません。大きな祭事前には、果物の値段も上がります。
一度、バナナの値段を聞いたところ、1房Rp35,000と言われ、買うのを見合わせてしまいました。因みに同じような大きさのバナナ、トモホンではRp10,000くらいで買えましたね～。

MOENAというフルーツ専門店もあり、バリ島内で幾つもの店舗があります。
店頭にはジューススタンドがあり、いつでも新鮮なフルーツジュースとES TELERが味わえます。
スイカジュースやミックスジュースがまろやかで、飲みやすい、なぜだろう？と思って、作っているところを拝見すると、、、コンデンスミルクを投入していて、納得でした。(笑)
それ以来、我が家でジュースを作るときも、コンデンスミルクを入れるようになりました。バナナ、スイカ、グアバなど、、、飲みやすくて美味しく出来ます。どうぞ皆様も「コンデンスミルク」投入！、お試しください！

バリ島の果物の種類は、トモホンとほぼ変わりませんが、いくつか違うもの、手に入りやすいものがあるように思います。今回はそのいくつかをご紹介したいと思います。
バリ島で、値段が高いなと思うのは、バナナくらいです。他の果物はシーズンであれば、トモホンと同じくらいか、それ以下というものもあります。

＊SALAK GULA PASIR

通常のローカルサラックより小ぶりです。パリパリ歯ごたえがあり、甘みもあります。旬のピークを迎えると、Rp10,000/kg前後まで下がります。旬を過ぎてくると、Rp25,000/kg～45,000/kgと徐々に値段が上がります。(デンパサールの市場での価格です。)

サラックの食べ方として、こちらの人たちは、熱湯で茹でて食べるそうです。
私自身は、経験はありませんが、市場のおばちゃんが教えてくれました。その茹で汁も飲むと身体に良いよと言っていました。

茹で汁と言えば、Sirsakの葉の煮汁がこれまた身体に良いと、近所、家族、親戚間で一時期ブームになっていました。
一つのキーワードは、「コレステロール」値が下がる、、、です。

話題が逸れましたが、バリ島では、かなりの収穫量があるサラック。加工され、お土産として店頭に並んでいます。
Manisan sarak（写真左）は、ドライサラックとでも言いましょうか。薄くスライスしたサラックを、甘く味付けして、オーブンで乾燥させている工程をテレビで見ました。

天日干しをしているのかなと思っていましたが。
　天日干しで作っているところもあるのかな？味は、言われなければサラックとわかりません。乾燥あんずのような食感で美味しいです。
　チップス（写真右）、DODOL（写真中央）なども人気があります。

　DODOL のパッケージ、レインボーカラーで、中々かわいいのですが。
この大きさに対して、内容量７本！
箱を振ると左右前後に中身が踊ります。が、気にしない！気にしない！
一箱、Rp8,500 でお手頃価格。大は小を兼ねると言いますから、これで良いのですね！！

＊KESEMEK

　柿です。(dari jawa)インドネシアで、柿が食べられるとは想像もしていませんでした。見た目は日本の渋柿に似ています。石灰のような粉がかかっている状態で売られているので、もしかしたら、渋抜きをされているのかも知れませんね。
　甘さは控えめですが、シャキッと歯ごたえがあって美味しいです。Rp8,000/kg 前後で、購入出来ます。
　干し柿にしても美味しそう！と、手作り干し柿にいつか挑戦してみたいなと思ったりしております。

＊ASAM JAWA (TAMARIND)

　デンパサールの市場で、売られていた物を、初めて食べました。甘酸っぱくて、美味しいです。茶色のさやに納まっている種子の部分を食べるのですが、見た目はそら豆の形？に似ています。
　スーパーマーケットに行くと、タイからの輸入品が置いてあります。果物専門店の MOENA でも、この輸入品を扱っているのですが、中々地元の物には、お目にかかれません。500g で Rp35,000 前後です。

＊TAMARILLO

　Tomohon では、Terong belanda と呼んでいました。
甘酸っぱくて、食感はトマトかマンゴーのようです。卵を少し小さくした大きさです。
　ナイフで半分に切って、スプーンで、中身をすくって食べます。ジュースにして飲むのもお勧めです。コンデンスミルクを入れると、更に飲みやすいです。

＊Buah Naga

　ドラゴンフルーツ(dari jawa)。中が赤い物が主流です。(もちろん白い物もありますよ)　Rp10,000/kg 前後で購入出来ます。
　トモホンのスーパマーケットでも見かけていましたが、Rp45,000/kg くらいで売られていて、高いなーという印象で中々食べられませんでした。
こちらでは、12、1 月にほぼ毎日食べていました。旬を過ぎても結構、スーパーマーケットでは、目にします。しかし、値段は高めですね。Rp4-50,000/kg 前後です。

　幼少期、食後のデザートが、必ずフルーツだった家庭で育った私の食生活に、果物は欠かせません（笑）。トモホンでは、papaya、pisang、juruk ikan、旬になれば、sirsak も、裏庭に行けば、手に入りました。
　とても恵まれた環境で生活できていたことに、この原稿を書きながら、改めて感謝の気持ちになりました。

　最後に、「待てばタルシウスの日和かな」
原稿の締め切り日を過ぎても、気長に待って下さった長崎さん～
いつも、ありがとうございます!

向かった先は、北緯 1°

高倉　清香

【はじめに】

『ゴロンタロに行ってみないか？』恩師のこの言葉で決定したゴロンタロ行き。

皆さんは、ゴロンタロという州をご存知でしょうか？スラウェシ島の北、北スラウェシ州の西側にあり 2001 年に 32 番目の州として誕生しました。インドネシア人であっても知る人は多くなく、インドネシア国内を見てもまだ知名度の低い州です。

そんなゴロンタロに来て、丸 3 年が経ちました。私が来た当初より随分発展し、MATAHARI モール、オシャレなカフェや新しいホテルが次々にオープンしています。と言っても、ここはまだまだゴロンタロ。2013 年に BPS（インドネシア中央統計庁）により発表された貧困率データによると、インドネシア全州で下から 5 番目という悪状況。インフラ整備も遅れており、市内であっても 2 週間に丸 1 日間の予告なし停電、主要道路もアスファルトが剥げ穴だらけ、馬やヤギが平気な顔をして横断しているという有様です。

【ゴロンタロとマナド】

従来通り、車やバスで休憩込み・片道 10 時間かけての移動はもはや定番です。以前は 1 日 1 本だったマナド⇔ゴロンタロ間（40 分のプロペラの旅）も最近は Wings Air が 1 日 2 回飛ばすようになっています。急な出張でジャカルタやマカッサルに行かなければならない時、こんな時は大抵どの便も満席になっています。そもそも Garuda Indonesia は 1 日 1 本ですし、Lion や Sriwijaya は価格設定が安いこともあり、早めに取らないとダメなんですね。チケットがない場合は、頑張って車でマナドまで行き、チケットをゲットしています。

マナドを中心とする北スラウェシ州の皆さんなら…ゴロンタロにお越しになった方もいらっしゃるかもしれません。ですので、ここで改めてゴロンタロについて説明することは必要ないかとは思いましたが…。

ゴロンタロ州は北スラウェシ州と同州でした。ですので、ご家族や親せきがマナドやコタモバグなどにいらっしゃる方も多く、ゴロンタロ人は年末年始休みにマナドへ旅行することは、ちょっとしたステイタスになっています。年末年始のマナド市内のひどい渋滞はゴロンタロ人のせいです。ごめんなさい（笑） マナド市内のクラブに繰り出し、いかに楽しい休みを過ごすか…（いいのか、ムスリム！と言うツッコミは置いといて…）。私がゴロンタロに来て半年ほど経った時でしょうか。マナド、特にトモホンの方はご存じ『Cap Tikus』を飲まないか、とお誘いを受けまして、アルコールに飢えていた私はいそいそと出かけました。皆さんはコーラやペプシなどと混ぜて（しかも常温…）楽しんでいまして、1 本 7,000～10,000 ルピアであんな陽気になれるなんて魔法のお酒だわ！と密かに関心（？）したものです。それからいろいろ話を聞いていると、A・B・C と 3 つのランクに分けることができ、トモホン産の A ランクは本当にお高い！Aqua の 600ml ペットボトルで 60,000 ルピア！ちょっと出してもらい、火をつけてその色で本当に A ランクか確認するとのこと。ですが、やはり A ランクはうまい！　最近は、こん

な A ランクの Cap Tikus が滅多に入手できず店頭（と言ってもかなり怪しげな Kios なことは言うまでもない）にはないのですね。この他にも、サグエル、ピナラチと言った様々なアルコールがあり、どれも地元酒として安価で入手可能です。私の好みは Cap Tikus よりピナラチでした。独特の匂いがダメという理由でゴロンタロ人のウケはあまりよくないですが…

【マナドでのフィールドと終らないあの時代】

何を隠そう、私の専門は火山灰です。急に地質の話でごめんなさい。ゴロンタロに行くと決まった時から、隣の北スラウェシ州にはたくさんの活火山がある、と情報入手済みでいくつかの論文を読んでいました。これは行かない手はない！と、恩師がゴロンタロに来る日程と合わせ調査フィールドと言う名の趣味の調査に出かけました。マナドは完全に素通りし、トモホン、コタモバグ、トンダノ、カワンコアンなど火山灰が堆積しているであろうと予想される場所へ行きました。北スラウェシ州にはミナハサ諸島も含むと 10 以上の活火山があり、ロコン火山などはここ数年でも気まぐれのように噴火していますよね。各地の岩相や堆積物を見ては、あーじゃこーじゃと議論し合いました。また、トンダノ湖やその周辺の地形を見て、何であーなんじゃとまた議論。化学・科学的ではないですし感覚だけですが最終的に大きな仮説を立てました。以前は 1 つの巨大火山だったのではないか、というものです。本当に根拠もありませんし、お酒も入っていましたので、ご愛嬌でお願いします。それにしても、あの時食べた Nasi Kuning と Tinutuan（Bubur Manado）が忘れられません。ゴロンタロにももちろんありますが、やはり本場のはうまいっ！Cakarang を添えても美味しいし、Mie 入りでも間違いない！また食べたいものです。

このフィールドで今も忘れられない記憶があります。Goa Jepang と呼ばれていたその場所は、道沿いにずっと続いていた凝灰岩を利用して掘られていました。凝灰岩とは、平たく言うと火山灰などが固まって出来た岩石のことを言い、年代が若いものだと固くなっている過程にあるため、道具は使うものの比較的簡単に掘ることが可能なのです。また、別の場所では綺麗な露頭（野外において地層・岩石が露出している場所のこと）があった場所が個人宅裏庭と言うことで、厚かましくもお願いして見せて頂いた時のことです。その家には、82 歳（2012 年時点）という元気なおじいさんがいらっしゃり、裏庭に立ち入る許可を下さったばかりか、休んでいきなさいとお茶とお菓子を勧めて下さいました。私が日本人だと知ると、おじいさんは戦時中のお話をされました。非常に辛い時代であったようですが、今の自分と家族があるのは日本軍のおかげだ、と言

い感謝していると仰っていました。「本当にありがとう」と何度も私に行ったのです。

この言葉を聞いた時、何とも言い表せない感情が湧いてきました。長崎市出身が故に 8 月 9 日は登校日でしたし、どんな悲惨な事が起きたかという「被害者」の視点・立場でしか知らなかった出来事を、どんな悲惨な事を起こしたかという「加害者」の視点・立場で考えるというキッカケを与えて下さいました。お恥ずかしい話ですが、このような視点で考えたことがなく、また日本史を学んだのは中学時代が最後と言うこともあり、全くの知識がなかった私は日本から本を送ってもらい読み漁りました。これは完全に余談ですが、2015 年 4 月に東ヌサテンガラ州にあるインドネシア最南端といわれている Rote 島に旅行した際に、宿泊した先の管理人さんから、周囲で日本軍のものと思われるご遺体と遺品がいくつか発見されたがどうしたらいいのか、と言う話を受けました。日本軍であると推定した証拠でると言って、遺品だと思われるものをご持参いただきました。短剣の鞘の中に入っていたという布きれを見ると確実な判断は出来ませんでしたが、日本語らしき文字がありました。この管理人さんはタイミングよくバリに行く用事があるとのことで、バリにある日本領事館を訪ねるつもりだ、と話していました。このような出来事は、戦争とは決して過去のことではないと改めて感じると同時に、日本人であることを実感する瞬間でした。

【ゴロンタロ大学での活動】

さて、ちょっとばかり堅い話でしたが、ここからは私がゴロンタロに来た理由についてです。私が卒業した愛媛大学とゴロンタロ大学間で締結された学術的支援などを目的とした協定に基づいて、愛媛大学より偏光顕微鏡（岩石剥片観察用の顕微鏡）を寄贈したのです。しかし、偏光顕微鏡を使用出来る教員がいない、偏光顕微鏡を用いて観察する岩石剥片がない、のないない尽くし。ゴロンタロ大学からこれらを解決するため、ゴロンタロ大学・理学部・地質学科で偏光顕微鏡の管理と使用方法を教えることを目的とした人材派遣要請があったのでした。

ゴロンタロに到着し現地の生活に慣れる時間もなく、大学での生活は突然始まりました。何と、到着した次の日からの授業開始。到着した日に構内を見て回りましたが、お世辞にも大学と言えるような場所ではありませんでした。教室も机もない、カリキュラムにある科目が開講されない、教材がない。さらには、教員不足により前

期だけで 10 科目以上を任されることになりました。中には学生時代に履修したことのない科目まで含まれていたので、予想もしていなかった追加科目の授業準備にてんやわんや！言葉も全く伝わらず、考え方・習慣・文化などの相違により上手くいかない日々が続きました。ようやく前期が終了したかと思うと、続いて後期授業が始まります。もちろん通常でない科目量でした。この頃のことを思い出すたびに、教員・職員の方や生徒達に申し訳ない気持ちでいっぱいになります。いかに任された科目を消化するか、このことばかりを考え過ごしていたため、他の学部・学科のことはもちろん、生徒達のことも全く見えていなかったのです。2 年目に入ると、大学生活にも慣れ、新たな教員も加わり、気持ちにも余裕が出てきました。この時期の私の原動力は、学びたい、勉強したいという生徒達の熱い姿勢でした。生徒を連れて野外実習に出かけたり、生徒の要望に応え、岩石剥片作成実習のプライベート講座を定期的に開講したりしました。この成果もあってか、偏光顕微鏡の使用方法にも少しずつ慣れ、観察可能な岩石剥片のストックも出来ました。ゴロンタロ大学としても、地質学科専門の教室および実験室の設置や教材の補充などを行っていただきました。大学の垣根を越え、バンドン工科大学の地質学科の教員の方にお越しいただき、不足している部分を補っていただきましたし、愛媛大学ともプログラムを組み、共同研究を通した両学生の交流の場を設けました。それでも問題は山積みです。生徒が負担する野外調査費の額が大きいことにより履修不可能な学生が出るといった経済的問題、卒業論文指導可能な教員不足により未だに卒業できずにいる最上級生、急に変更される時間割…。私が思い描く『大学の在り方』にはまだ遠いですが、学科を 1 から立ち上げる過程に携わることが出来たことは、私の大きな財産となりました。

【北ゴロンタロ県知事特別職員・環境コンサルタント】

2 年半務めた大学での契約更新を断り、ゴロンタロ州にある地方政府で環境コンサルタントとして勤務しています。講師時代より調査を行っていた、違法金鉱山やその周囲における重金属汚染による人体・環境問題により密に携わるためです。右の写真は、トロモも呼ばれている機械から排出された水銀を含む汚水が流れている土壌に生息している植物・土壌を採取している風景です。このような試料から、どの程度水銀が含まれているかという濃度を測定します。現在インドネシアでは、工場や鉱山などから排出される重金属を含む廃水による環境汚染が 1 つの問題となっています。重金属と一言で言っても、人体に必要な金属元素もあります。大事なのは、ごく少量が必要なだけで、一定量を超えて摂取した場合は人体にとって有害な物質となってしまうということです。これは人体だけでなく、環境にも同じことが言えます。

人体・環境への汚染について調査を進めていく中で、鉱山での労働者、鉱山周囲の住民、学術機関や地元政府との連携の大切さに気づきました。インドネシアだけでなく、世界各国の発展途上国で同じような問題が報告され危険性が叫ばれている中、どのように取り組み解決していくか。『危険だから働かないように』『ここの食べ物は汚染されていますから別の場所で買って下さい』だけでは何

の解決にもならないと思ったのです。危険性や調査結果の報告ももちろん重要です。しかし、なぜ発展途上国で同じ状況がみられるのか。ここに問題の根底が見て取れます。貧困が故に、危険だからと知りながら、最も早く、そして多くの収入を得る方法なのです。貧困問題をいかに解決するか、ここにこの環境問題を解決する道があると思っています。日本を含めた学術機関との連携で継続した調査を、政府との連携で経済的支援を進めていく予定です。経済的支援とは現金を直接渡すのではなく、新しい雇用の窓口を設け、危険な労働環境を抜け出し、持続可能な開発を続けることを目標にしています。私の仕事は学術的調査参加だけでなく、この持続可能な開発のためのキッカケを作り、必要なサポートを行い、現地の方の力だけで進めていける環境を作り上げることだと思います。また、日本での過去の環境問題を教訓に、日本とインドネシアの架け橋と言ったら大げさですが、世界に誇る日本の技術で対応・解決できる部分は積極的に取り入れるなどして、日本人だからこそ出来る事を探し出し実践していく予定です。

【さいごに】

私はいずれいなくなる存在です。インドネシア語も出来ず右も左も分らない私を温かく受け入れてくれたゴロンタロの人と場所。私がいままでゴロンタロの皆さんにしていただいたことへの感謝の気持ちを込め、限られた時間の中で少しでも還元出来たらな、と今は考えています。政府の仕事はまだ始まったばかりですし、問題はたくさんありますが、ゴロンタロ大学での経験を活かし、焦ることなく一歩ずつ着実にそして常に目標を定め活動していく所存です。

追記 ： 本原稿は 2014 年の日本・インドネシア協会「月刊インドネシア」の原稿に、マナドの思い出を加筆したものです。
また、私自身のインドネシア・ゴロンタロの滞在期間は 2011 年 7 月～2015 年 4 月です。

インドネシアの良いところ

ビトン　大貫周明

こんにちは。最近、私の勤務先が中国に工場を建てた事もあり中国・台湾方面の出張が多くなりました。

ビトンの会社のインドネシア人幹部やリーダーもローテーションで中国へ長期出張しており、みんなでこの話題を話す機会が増えました。

自分も中国や日本にいる時間の方が多くなり、最近はビトンで過ごす時間の方が少なくなっております。

そこで今回は、あらためてインドネシア（ビトン）の良いなぁと実感した点を書きたいと思います。

①やっぱり物価が安い

ビトンでは高給取りでしたが、日本や台湾では貧乏生活です。インドネシアも物価が高くなっていますがやはり日本の1/5程の物価は魅力的です。特に食費ですね。日本で食後にフルーツ食べたら費沢ですが、ビトンは果物なんでも安くておいしいですから。

②時間に厳しくない

日本の会社は時間に厳しいですよね。商談に30分遅刻しようものなら交渉にも大きく影響します。

その点、インドネシアでは毎日ゆっくりと過ごしていました。南方系全般に言える事かもしれませんが、暑いのでのんびりしちゃうんでしょうね。

これはもう仕方がないのですね。人間だもの。

せかせかしていない方が人間らしい生活を送れると思います。

③暖かい

あたりまえですが。これが結構ありがたいという事に気づかされました。

最近、北海道の会社との仕事が増えており、札幌に行く機会が多々あり、あらためて実感しました。

寒いより暑い方が幸せ。服だって一年中、Ｔシャツと短パンで暮らせます。

インドネシアは湿度も丁度良いのですが、札幌や大連では乾燥しまくりでノドも痛めて大変でした。

また、サンダル生活に慣れてしまうと、靴を終日はいているのが結構な苦痛に感じます。

痔主なので、ちょっと寒いとスグに尻にきます。寒いところでは生きてゆけない体になってしまいました。

④みんな明るい

日本のサラリーマン暗い人多いですね!ストレス社会で大変なのでしょうが。仕事しすぎでは？

インドネシア人は皆明るくて良いですね。というか能天気なのでしょうか。それなりに、みんな色々な悩みがあるようですが。。。大抵の問題や失敗事はTidak apa apaで済んじゃいます。お金はそんなにありませんが、みんな親切で楽しくて優しい人ばかり。

日本は物質的には恵まれていますが、インドネシアの方が人生楽しく過ごせるのでは？と思います。

⑤景気がいい

日本の経済は既に成長してしまったので、今後は現状維持か悪くなる一方です。消費税も増税ですし。

インドネシアの右肩上がりの経済成長はまだまだ続くでしょう。ビトンでも国の発展を体感出来ます。

どんどん新しい店が増えるし、車も良くなってる。着実に金持ちも増えていますね。

⑥ごみを選別しないで捨てられる

日本では瓶が透明か緑か茶色かとか分別が細かく分かれすぎていて自分には分別不可能でした(笑)

最近、ビトンでも大まかな分別が始まりましたが、ゴミの捨て方を気にしないのは結構楽なもんです。

⑦日本人というだけで

モテます。

仕事もあります。日本人というだけで、それがスキルに。

なにより親日国ですしね。中国に行くといつも自然とガードが上がります。

⑧お金で解決

言い方が悪いかもしれませんが、大抵の事はカネで何とかなります。(なりました)

外国人にとってはありがたいシステムです。

書き出してみたら、これ以上は思いつきませんでした。悪い点はこの何倍も。。 でもビトン好きですよ。

以上

南洋真珠養殖

今泉　宏

１９９４年に大学を卒業した後、伊勢に本社のある覚田真珠株式会社に入社。半年間天草で真珠養殖の研修を受け、その後インドネシアへ派遣され、それ以来２０年間南洋真珠養殖に従事してきました。以前タナワンコの古賀さんからタルシウスに真珠の話を書きなさいよと言われたことがありましたが、当時はまだ自分が真珠を語るにはいささか経験不足の感があったので自分には僭越であるとお断りしたことがありました。この業界は自分より若い世代がほとんどいないのでいつまでも若手だと思っていましたが、２０年も経てば立派なベテランですよね？　それに記憶もあやふやになってきたので、ここらで一度自分の記憶を整理するうえでも一筆したためておこうと筆を取った次第であります。

入社当時、日本ではバブルが崩壊し経済はボロボロになっていましたが、真珠業界はよい真珠が採れればまだ高値で売れている状態で、社長が真珠業界に不況はないと豪語していたのを思い出されます。入社１年経った時の昇給もそこそこあり、これはよい会社に入ったものだと喜んでいたのもつかの間、日本のアコヤ真珠養殖で原因不明の衰弱、斃死が大量に発生し大騒ぎとなりました。その結果当然真珠の収穫量はもちろん品質も大幅に低下し真珠業界に大きな打撃を与えました。

時は前後しますが、実は南洋でも私が入社する前の年にアラフラ海に浮かぶアルー諸島（当時天然貝が豊富で真珠養殖が盛んに行われていた）で天然白蝶貝が大量に死ぬという事件があったと聞いています。それ以来、今に至っても当地で採れる天然貝は、採取し筏に垂下すると死んでしまうという状況が続いているそうです。ただ、現在はどこの会社も真珠養殖には人工採苗で得た人工貝を主に用いているのでその点は問題ありませんが。

この天然貝不足の時期と入れ替わるように各社人工採苗が成功し始めました。覚田真珠でも（今は独立して真珠養殖をされている）落合氏がビトン事業所で成功させています。当時私はイリアンジャヤ州のラジャアンパットにいて、ビトンからの稚貝を受け取り育成していました。採苗は成功したものの実はこの稚貝育成がくせもので、殻径３ｃｍぐらいまでは順調に成長するものの、何度やっても３～５ｃｍ（約３ヶ月～６ヶ月）ぐらいの時期に９０％以上死んでしまうということを繰り返しました。この時期の大量死を克服している業者はいまだにないのではないでしょうか？

しかし試行錯誤を繰り返しているうちに、大量死を起こさずに成貝まで育成できる場所があるということが分かってきました。たいていは外洋の澄んだ海水の入る場所ですが、そのような場所は通常プランクトンが少ないため、よい真珠が育たないのです。それならばと稚貝育成を外洋に近い海水の澄んだ場所で行い、十分成長した後プランクトンの豊富な真珠育成漁場へ移すという方法をとるようになってきました。それでも移動後に５０％も死んでしまうということは頻繁に起こります。私の入社当時と比べたら随分技術は進歩したものだと思いますが、まだまだ技術改善の余地がたくさんあるようです。

日本のアコヤ真珠の不作以降、南洋真珠では人工栽培貝の成功により利益が出るようになってきました。私が入社当時はアコヤ真珠全盛期で、研修をさせていただいた会社では南洋などは社長の趣味みたいなものだからさっさと帰ってきてうちで働きなさいと言われたものですが、数年で状況は大きく変わり南洋真珠が注目されるようになりました。新入社員も続々と入ってきて、ラジャアンパットの僻地の島バタンタ島が大いに賑わったのはこの時期１９９４年頃から１０数年の間でした。

因みに現在バタンタ島養殖場の日本人養殖技術者は北スラウェシ日本人会会員でもある木谷氏が一人で奮闘されております。

バタンタ島から船で３時間ほどの場所にソロン市という港町があり物資補給と交通の拠点にしていましたが、この町は真珠養殖が始まるもう一昔前にエビトロール漁業で賑わっていたことがあります。その名残と言っては失礼ですが今でも日系の水産会社が数社残っており天然エビを捕獲しております。

日系水産会社といえば北スラウェシ日本人会の外岡さんもソロンで缶詰会社の管理をされていましたね。私が赴任した当時はエビ会社に年配のメカニックの方や船長、それに少し若手の所長さん方が数人いて、度々日本人会の集まりも開かれておりました。年配者中心のエビ屋さんに対して、真珠屋は年配のベテラン２人とあとは２０代中心の超若手チームで勢いだけはありました。２０代の男が数人集まったらやることなど決まっており、週末の夜はネオンに誘われ街へ繰り出し、バーを何件もはしごしたものです。エビ屋さんの先輩方からは真珠屋の若い衆がソロンを荒らしたので遊びにくくなったと文句を言われたこともあります。

ラジャアンパット地区にはフィリピン系の真珠養殖会社もあり、南洋真珠全盛期には日本人技術者が数人いて、こちらも元北スラウェシ日本人会の榎本さんらが在籍しておられました。ソロンからさらに奥地にカイマナという町があるのですがそちらにも多くの日本人が真珠養殖のために派遣されておりました。

今思えばあの頃がインドネシア南洋真珠の全盛だったのでしょうか。日本は

不況といってもアメリカ、ヨーロッパでは真珠の需要がありそこそこ売れていたのですが、かのリーマンショック以降はさっぱりで一気にどん底へ転げ落ちました。給料カット２０％、３０％は当たり前でした。リストラで日本人養殖技術者の人数も随分減りました。挙句には覚田真珠からも切り離され、現地人パートナーへ売却。最後に残っていた技術者（私や木谷氏）は現地会社の現地採用という身分まで落ちていったのです。その後私は現在の会社（タリセ島）へ転職しましたが一年契約の現地採用という身分は変わっていません。

落ちるところまで落ちて底辺で安定したら不思議なものでそれなりに金銭的にも精神的にも安定するものなんですね。もうだめ、もうだめ、と言いつつもここ数年間はそこそこ平穏に生活している気がします。

そうこうしているうちに中国、インドなど新興国がメキメキと成長し真珠の新しいお得意さんになってくれました。今ではこの 2 大国のおかげて我々も細々と真珠養殖を営むことができています。因みに私のいるタリセ島は、以前は堀口真珠さんの養殖場だったのですが、現在はインド人がオーナーとなっております。

そしてインドネシアにとって喜ばしいのは、このアジアの 2 大国の人々は金色を好むということでした。金色の真珠は以前からありましたがゴールドパールと珍重されるようになったのはこの 10 年ほどの間のことです。

ゴールドパールが何故インドネシアにとって喜ばしいのかと言うと、白蝶貝はオーストラリア、インドネシア、フィリピン、ミャンマーなどに生息していますがインドネシア、フィリピン、ミャンマー辺りでは黄色系の白蝶貝が多く生息していてゴールドパールを生産するのに有利だからです。以前はインドネシアでは薄い黄色、クリームと呼ばれる色の真珠が大量に生産され消費者からはあまり人気がありませんでした。今でもやはりクリームは人気がない上に量が多いのでよい値はつきませんが、中国あたりではこんな真珠でも色をつけてゴールドパールとして売っているのだとか。それ故クリームでもそこそこの値がつくようです。

会社によっては本物のゴールドパールを効率よく生産し、高値をつけて利益を上げているところもあります。私もこの 10 年ほどの間は色にこだわり、高値のゴールドパールをいくらか産出してきましたが、選抜育種によって完全にコントロールできるレベルにまではまだ達しておらず、この辺りにも今後ののびしろがあると考えています。

欧米さんがお得意様の時代は白が圧倒的に人気があり、クリームと比較すると 3 割以上も値段に差がありました。インドネシアでは黄色系の貝がほとんどなので白系統の貝はとても希少でしたが、オーストラリアに近いアラフラ海ア

ルー諸島周辺では白系統の貝が多く採れました。落合氏がビトンに在籍されていた頃、このアルー諸島の白系貝から選抜育種していくらか白系統の貝が作れるようになりました。さらに年月を重ねた現在では高効率で白系貝ができるようになっています。そのおかげで今日では白系統の貝がそこそこ容易に入手できるようになり、インドネシアでも安いクリームではなく高値の白い真珠が生産できるようになりました。ゴールド系も今後選抜育種を繰り返したら近い将来ゴールドパールがもう少しお手ごろな価格になるのではないかと思います。

私が真珠養殖に従事してからの 20 年間はざっとこんな感じでした。よくなったり悪くなったりしながら養殖屋がぎりぎりやっていける値段に落ち着いてきたといったところでしょうか。うちには生まれたばかりの赤ん坊がいるのであと 20 年は仕事を続けなければなりませんが、できれば真珠養殖であと 20 年食べていけたらありがたいことだと思っています。そのためには稚貝育成技術の向上とゴールド系統の貝の増産、さらにもう一つ二つほどイノベーションが欲しいところです。

それともう一つ忘れてはならない最重要事項は、インドネシア人の養殖技術者を育成することです。日本人の養殖技術者は私たちの世代で完全に途切れてしまっています。あと 20 年ぐらいは私も働けそうですがもう動けなくなってから指導を始めても手遅れになってしまいます。これから 10 年ぐらいで後継者を育成しその先 10 年は給料だけもらって遊ばせてもらえたらありがたいことですが、そう簡単には行かないのが人生というものでしょう。

改めてマナド（インドネシア）の医療事情を思って・・・

中村　高太郎

はじめに、会員皆様もFBやMLでご存知のとおり、2015年4月25日、日本人会のカウナン春奈さんの旦那様がご逝去されましたが、私も、改めて2013年8月のマナドでの義母の死を考えさせられました。本当にカウナン春奈さんの旦那様のご冥福と、義母のご冥福を祈るばかりです。

さて、日本の医療は、先進国と比較しても特別に進んでいるとはいえません。(が、もちろん劣っているというわけでもありませんし、一部では進んでいる所もあり、一部では劣っている所もあるということです。これは厚生労働省の認可可否も原因の一つではあります。)

しかし、一つ言える確かなことは、健康保健等も含めた医療制度が途上国は勿論、先進国の中でも進んでいる方だといえます。(もちろん、これも「ゆりかごから墓場まで」といった事を実践している国家には、当然、劣りますが、それらの国は税金もそれなりに高いなど、一長一短です。)

さて、マナドでは、どうでしょうか？　最近は現地の貧困者向けの無償医療制度なども普及してきているようです。マナドでは、庶民から見れば、マララヤンの病院が有名のようですが、お金があれば最近出来た、シロアム病院など最新設備を導入した病院での診療もよさそうな第一印象もあります。マララヤンやシロアムなど大きな病院はCTスキャン装置を始めとした近代設備も完備されてきているようです。さらには、健康志向ブームを狙ってか、日本で言う人間ドックのようなメディカルチェックプランもあるようです。

しかし、私は、いくら機材が最新であってもインドネシア全体的（特にマナドは）人的問題（特にモラルなど）で非常に遅れていると考えます。(もちろん良い医者もいるでしょうから、全部が全部とは言いませんが、心が誠実であっても技量に欠ける、技量があっても誠実でない、その両方を欠いているなども多いと思います)機材は先進国から買えば、お金の問題をクリアできれば、一流品を揃える事ができますが、問題は、機器メンテナンス体制、そして最も重要なのは、医療従事者つまり、それを操作する人間や、結果を判断する人間（画像検査技師や専門医など）の質ではないかと思います。

嘘をつかず（能力があるつもりも含み)、言い訳をせず、誠意をもって接する。当然のことですが、これが不足しているようです。また病院が儲ける為、医師によっては（医師にノルマがや報償制度があるなどセールスマン化している場合）に不用意なメディカルチェックや高額医療を勧める場合もあるようですが、更に悪い可能性として、このような、セールスに夢中になって、検査が形骸化したり、本来の病気を見逃してしまう等の可能性もあります。もちろんインドネシアでも、全ての医者がそうであるというわけではありませんが、モラルハザードも甚だしいです。

インドネシア人で、本当にお金を持った富豪は、病気になると、チャーター機で、シンガポールやオーストラリアの病院に行くとか聞きますが、まさに、こういうことでしょう。

昔の日本でも医者は神様のように扱われ、不祥事があっても病院ぐるみで、うまくもみ消す時代もありました。しかし、数々の医療裁判などを経て、大幅に改善され、また、治療分野においても、ただ長く生きさせるだけでなく、生活の質＝QOL＝Quality of Life（例えば、不治の病でも、痛みの緩和に重点を置くなど）といった人間としての扱いも考慮されるようになりました。

マナドで私自身が実際に入院して体験したこと、また義母が亡くなったとき耳にしたことは、医者や医療従事者（看護師など）は技量や知識も無いのではないか？！と率直に感じました。私の入院の体験談や義母の逝去については、「タルシウス第 27 号 2013 年を振り返って」も併せてご参照ください。特に、義母の件でも、とにかく嘯いた言い訳やもっともらしい説明、更に自分に責任は無いといわんばかり、また、KTP が新しくないとか、理不尽な対応、もちろん医師も患者をわざと死なせようとしているわけでもなく、何とか生かしたい、病気を取り除きたいという気持ちはあるのでしょう、また同時に病院としても、貧乏そうな人だと、治療費を回収できないかもという懸念もあるのでしょう、そして、最善を尽くす過程でミスもあるでしょう、しかし、こういった対応ですと、全てが台無しです。不信感だけ残ります。また、そういった医者や病院はは将来的にも、恐らく向上もないでしょう。また、病気の原因治療法が、分からないなら、変な見栄を張らず、手遅れになる前に、専門家に委ね、そう、アドバイスをするといったことも大切だと思います。

さてさて、、、　ここでこの文書を書いている（6 月中旬）ときの実況となります

先日、レンベ島の妻の知人が、Bitung の Rumah Sakit Angkatan Laut Bitung というところへ担ぎ込まれた話です・・・

当初、malaria tropika（学名ではなく俗称で熱帯熱マラリア）と診断されたそうです。その２週間後無事退院（しかし、直ったようでも数週間薬を飲み続けるような指示もなかったそうです。）したものの、また直ぐ、発熱し同病院へ病院へ担ぎ込まれたそうです。そのときの診断は、malaria falciparum、なんだかまた別のマラリアに感染したのかと騙されてしまうところですが、調べてみますと、学名で、熱帯熱マラリア・・・つまり、これは、malaria tropika と同じものです。

マラリアには、原虫の種類から 4 種類あります。熱帯熱マラリア、三日熱マラリア原虫、四日熱マラリア原虫、卵形マラリア原虫です。（最近サルマラリア原虫も発見されたようです。）あとは、同じ種類のマラリアでも、治療薬の耐性を獲得しているか無いかの違いです。

なぜ、わざわざ、同じタイプのマラリアなのに言い方を変えたのでしょう。もちろん、法的には、医者は嘘は言っていないかもしれませんが、もはや、ここまで来ますと、治療以前に患者の無知を良いことに馬鹿にしているとしか言いようがありません。あまりにも、腐ってます・最低ですネ。通常このような会報に、あんまり悪いことは書きたくないですが、これは酷すぎです。

その後、薬剤耐性がついたのか、耐性がつきにくいとされるアーテミシニンによる治療が行われたそうですが、このような場合、抗マラリア薬による肝機能や腎機能、心機能などモニタ・全体管理も必要と思われますが、そのような対応も無かったようで、マラリアが治る（この判断も怪しい）と今度はサキット・マァ（sakit maag）と診断され、更にその後、心臓の疾患があると言われたそうです。全く１ヶ月のうちに病名がころころ変わるというすごいところですネ。

心臓の疾患が起きたのも、元を正せば、全体管理なしの無謀な治療で必然的におきたとも思われ、かつ、もしものときの死亡時の医師の言いワケ用の予防線か？とも勘ぐりざるを得ません。第一に、薬物療法を始めるにあたっては、血液検査や心電図やレントゲンなどで、肝臓・腎臓・心臓に問題がないか、どのぐらい薬の負荷に体が耐えられるか、チェックして、薬の量を増減するものです。だから短期間に次から次に病気が現れるのは、不自然としか言いようがありません。

今はこの時点で、この後は、このご本人や関係ご家族の意向（転院とか）もあることでしょう。回復しますといいですが・・・（患者の名前等は進行中の事案でもあり伏せます。ご了承ください）

さて、痛みがあるとか、気分が悪い、極端にやせた・太ったというのは、何かしら異常があるということです。風邪などであれば、数日でよくなりますが、そうでないなら、やはり何らかの異常が起きているのです。それは、ストレスとか心の問題かもしれませんし、臓器の異常や、癌の侵食など直ちに生命にかかわる深刻なものかもしれません。でも何かあるはずです。

このような、異常がある場合、日本でも恐らくインドネシアでも普通は、自分の判断で、風邪薬だとか、胃腸薬だとかを飲むことになると思います。このとき大抵、日本の薬であれば、この薬を２週間以上飲み続けても症状が改善しない場合は医師に相談してください、といった内容の文面があると思います。これは、つまり、別の原因＝別の病気があってこの薬では治らないということを意味します。こういった場合は、深刻な病気の場合もあるので、直ぐにでも医者に相談するようにしたほうが良いでしょう。

しかし、医療事情が上記のようであれば、なんともしがたい、どうしようもないとしか言いようがありません。逆に医者に行くほうが、もっと状況を悪くしそうな感じもします。

長期滞在する場合は、自分自身のための①最低限度の医療知識と、せめて、②信頼できる医者（病院）の確保が必要かもしれません。信頼できるとはどのようものかは、後述します。

なお、医療情報については「家庭の医学」（本）や「メルクマニュアル」（本・インターネット http://merckmanual.jp/mmpej/index.html）などがあります。

ぜひ参考にされ、医者との治療方針などでも、医者の言葉が分かるようになったり、自分の希望（このように治療してほしい、とか、延命より苦痛を取り除くことをメインとしてほしい）などを希望を伝えられるようなれれば、幸いに思います。

とにかく、自分の体のことなのだから他人任せにせず、医者という存在は飽くまで、単に人生のプランナーとして、一緒に健康の維持に参画するものだと思いますし、自分の問題は自分で治すものです。怪我をしても自然に傷は良くなります。風邪を引いても、じきに直ります。

薬は飽くまで、体の自己修復機能を助けるものです、風邪においても、ウィルスを直接殺すのではなく、抗炎症剤や解熱剤、栄養剤（ビタミンなど）により症状を緩和するわけです。

（※一部インフルエンザ用のタミフルなどは直接ウィルスに作用します）

しかし、怪我の程度が深刻であったり、病気が、がんなど深刻なもので自己の治癒力ではカバーできないときに、医者の力を借りるわけです。つまり、医者も薬も補助的なものでしかなく、主役はあなた自身の自己治癒力です。極論を言えば、医師は、例えば手術においても、自身で自身を切り開き病巣を切除するようなことは知識の面や手技の関係で、不可能だから、任せているだけの存在に過ぎないと考えます。また手術の傷の回復も鎮痛剤やカテーテルで不要な体液を排出したりし傷の回復を助ける措置をしますが、回復そのものは、医師が行うわけではなく、自分自身の治癒力です。そこを間違ってはいけません。

医者がすごいのではなく、自分自身がすごいのです。人間の体は神様が設計したのかは分かりませんが、とにかくすごいです。そして、医者は神様でもないわけです。医者は不足している部分を医師の知識と手技を活用して、補っただけのことです。

だからこそ、信頼できる医者とは、身を（命を）委ねられ、たとえミスや失敗しても許してあげられる、ある意味パートナーのような存在でなければならないと思います。

義母の死因は、肝臓が悪い、肺が悪い、最後に心臓が悪い、、、一転二点三点しました。そりゃ誰でも死ぬ時は心臓が止まるでしょうに・・・なので、本当の死因はわかりません。恐らく、私が、インドネシア人で居合わせ、かつ、知識もありビデオカメラなどに逐一撮影や録音し、そうして、個人的に死因を特定できたとしても、また、そこに、医師のミスなどがあったとしも、そして、更に、証拠もあっても、示談に持ち込まれるか、裁判をしても負けるか、勝っても賠償金は各種調査や弁護士費用や助っ人の有力者への謝礼などに消えるでしょう。

また、示談でも、恐らく、どこのご家族・ご親類にも一人以上は存在する、欲深な人が、お金に目がくらんで圧力をかけ、苦しい思いをしたり。でも何とか裁判に持ち込んでも、不公平裁判の可能性もあり、難しいでしょう。確かに、死んだ人の事を追求して、謝罪と補償金を得ても裁判費用や弁護士費用、各種調査費用（公平な検査機関で検体を検査してもらう等）で法外な費用がかかり、一方で、訴えない事や口止めで、一定の示談金を提示された場合、経済的な状況や貧富の差などを考えると、インドネシアの人が、そちらに傾く事を、単純には非難できません。

先に書いた日本の昔の（～1980 頃まで）神様のような存在であった医者も、改善されてきたのは、やはり貧しくても示談金や脅しなどに屈服せず、真相を求め、闘ってきたというのが、日本での改善の要因の一つにもなったのではないかと思います。（それでも、なお、問題のある医者は存在し、今日の日本でも多くの医療裁判も起きていますが）

ところで、よく、「ヒポクラテスの誓い」というのを聞きますが（インドネシアでは実践されているのか不明ですが)、現代版にアレンジしたものが、ジュネーブ宣言として規定されています。参考までに、以下 Wikipedia より部分的に引用ですが、、、
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A5%E3%83%8D%E3%83%BC%E3%83%96%E5%AE%A3%E8%A8%80
※ちなみにジュネーブ条約ではなく「ジュネーブ宣言」です。ジュネーブ条約は別にあります。

ジュネーブ宣言とは、1948 年の第 2 回世界医師会総会で規定された医の倫理に関する規定であり、ヒポクラテスの誓いの倫理的精神を現代化・公式化したものである。1968 年、1984 年、1994 年、2005 年、そして 2006 年の改定を経て、現在の版に至る。

ジュネーブ宣言全文

以下に、2006 年 5 月、ディボンヌ・レ・バンにおける第 173 回理事会で編集上修正された版の直訳を示す。
医療専門職の一員としての任を得るにあたり、
①私は、人類への貢献に自らの人生を捧げることを厳粛に誓う。
②私は、私の恩師たちへ、彼らが当然受くべき尊敬と感謝の念を捧げる。
③私は、良心と尊厳とをもって、自らの職務を実践する。
④私の患者の健康を、私の第一の関心事項とする。
⑤私は、たとえ患者が亡くなった後であろうと、信頼され打ち明けられた秘密を尊重する。
⑥私は、全身全霊をかけて、医療専門職の名誉と高貴なる伝統を堅持する。
⑦私の同僚たちを、私の兄弟姉妹とする。
⑧私は、年齢、疾患や障害、信条、民族的起源、性別、国籍、所属政治団体、人種、性的指向、社会的地位、その他いかなる他の要因の斟酌であっても、私の職務と私の患者との間に干渉することを許さない。
⑨私は、人命を最大限尊重し続ける。
⑩私は、たとえ脅迫の下であっても、人権や市民の自由を侵害するために私の医学的知識を使用しない。
⑪私は、自由意思のもと私の名誉をかけて、厳粛にこれらのことを誓約する。

となっています。インドネシアの医師たちには、ぜひ肝に銘じてほしいものですが、、、

インドネシアの医師たちは「ヒポクラテスの誓い」や「ジュネーブ宣言」をどう思うでしょう。
私の私見と偏見もあるかもしれませんが、インドネシアの人は、私の経験上、物事を希望的観測といいますか、自分の都合の良いように解釈したり理解する傾向が強いようです。だから、上記を、とにかく都合の良いように解釈されれば、大変、恐ろしいものになります。例えば、、、

②は恩師のミスや不都合を隠す等してそれを感謝として表す（＝尊敬と感謝の念を捧げる）と誤解（＝インドネシア流に解釈）するかもしれません。

⑤は、守秘義務ですが、インドネシアでは、お金次第？（日本もそうかも）

⑥や⑦も②と同様、仲間や恩師のミスや不都合で名誉が穢れないようにお互いに庇いあいフォローする（隠す）という間違った解釈になるかもしれません。

こんな感じに誤った、解釈されるとたまったものではありませんね。

一時的にインドネシアに旅行された方や駐在員の方は、別としても、移住を目的としたり、リタイアメントとして中長期的にインドネシアで暮らすことを目的としている人にとっては、これは大問題です。頻繁に日本と行き来するというのは金銭的にも体力的にも困難だと思われます。

前述した、最低限度の医療知識を身につけることと、信頼できる現地医師の確保のほかにも、出国前に、よく、日本の医者と相談するとか、緊急時はシンガポールなどでも治療ができるような体制を整えておくとか、またそれに見合う保険等も重要になってくると思います。
駐在員の場合は、会社が保険をかけてくれていたり、最悪の場合、帰国という手もありますが、特に、リタイアメントで海外移住というのは、医療状況まで考えると地域によっては大変お金がかかる場合があることも理解しておかなくてはなりません。「私は延命治療は望まないから良い」という方もいらっしゃるかもしれませんが、ここでの、話は、本来治る病気を誤判定したり、手遅れになったり、また、治らない病気でも適切な QOL が確保出来ないなどを問題視しているもので、全く別問題と考えないといけません。

インドネシアの病院でもお金さえ出せば最新鋭の機材を買うことが出来ます。製薬会社が製造する薬も化学構造さえコピーすれば、同じものが、作れますし、現にインドネシアでは日本で承認されてないような新しい薬も流通しています。しかし、問題は人・モラル（人＝医師）です。
インドネシアにも、向上しようと常に心がけていたり、よい医師もいます。そういった医師とホームドクターのような信頼関係を築ければ、多少なりとも良いのではないかと思います。
また、インドネシアにすむインドネシア人は、幸か不幸か、先に書いたようなレベルの治療しか受けれません。しかも、安くはありません高いです。貧乏な格好で行くと追い返されるかもしれません。（勿論、あからさまには無いでしょうが、治療や入院前に簡単な診察で、処方箋を渡され、先に薬局から薬を買うように指示され、患者や本人が用意することで治療が始まるといった、お金を持ってない人を排除するフィルタもあるようです。）最近ようやく貧困層向けの医療保障制度が出来て来たところのようですが、不正利用したり、問題もまだまだ多くあるようです。

最後に・・・

ここであえて、タルシウス第27号の文章とは別に、ひとつの項目として執筆したのは、長崎編集長からの依頼もありましたが、私自身も、医者の、「『ずる』や『ちょんぼ』」に気がつくから憤りを覚える事や、将来自身に関わる可能性もあるので、私自身はもとより、このような地で暮らす人たちも（日本人・インドネシア人双方に）真剣に受け止める必要があると感じたからです。

先のマラリアの件も、妻が私に、「malaria tropika になった知人が今度は、malaria falciparum だって。どういうものなの？」なんて聞かなければ、私も、「それは言葉を変えただけで中身は同じものだよ。」と指摘する事もありませんでしたし、私の妻も、その知人の家族には伝えるものも無いですから、おそらく、その知人も、医者の言葉を信じて、２種類のマラリアになるなんて不運だ、、、なんてことで終わったでしょう。ただ、知らした訳ですが、医師に抗議するとか説明を求めるとかもしてないようです。一つ確かなことは、こんなおかしい医療事情は、誰かが、
おかしい所はキチンとおかしいと指摘しないと、いつまでたっても良くなりません。

この文章を、読んでくださった方の中には、一部表現等に不快感を覚えた方もいらっしゃるかもしれません。もちろん、インドネシア人（患者とその家族・医師）を馬鹿にしているわけではありません。馬鹿というのは、学ぼうとせず、無知なままでいる事に甘んじる事です。また、実際にすばらしい医師も少数ながら存在することも確かです。ただ全体的に見れば、やはり、人間的に問題があり、それは汚職（コルプシ）や何でも人任せ、責任転嫁等とも関係してくるインドネシアの国家的な病だと考えざるを得ない事が、これらの、おかしな状況の原因として多々考えられ、残念に思うところです。また、上記に拍車をかける形で、マナドでは、地域柄、変で無意味な見栄っ張りや医師の威厳を汚したくないような、所もあるのかもしれません。

何れにせよ、この辺りが、良くなってくると、医療サービス等も必然的に向上すると思います。

なかなか、現地在住の日本人が指摘しても、領事館や大使館を通じて苦情を相談しても改善されないものです。また、日本人が、現地で裁判を起こすことにでもなると、序盤から、かなり不平等なアウェー戦を覚悟しなければなりませんし、強力なコネとか無いと恐らく負けるでしょう。

一般のインドネシアの方が、やはり、不正やコルプシ、行政の怠慢やおかしいところに対して「ＮＯ！」と声を上げないとなかなか改善しないですが、それを行うには、それ以前に、一般の方がレベルアップ、つまり、マラスな態度（他人任せ）や責任転嫁などをやめ、世界で通用する常識を持つことが必要でしょう。そうした上で、正しい声を上げる必要があると思います。

また、日本も、インドネシアに各種ＯＤＡなどで技術援助・教育などを行っていますが、やはり単に援助というだけでなく、人としての常識（世界で通用する常識）といったものも同時に向上させるような政策・方針も取っていただきたいものです。（難しい事ですが。）

以上で、「改めてマナド（インドネシア）の医療事情を思って・・・」とさせて頂きます。

「インドネシア・エアフォース・ワン」　マナドに現る

中村　高太郎

5 月 28 日～29 日にかけ、ジョコ大統領がマナドを訪問しました。

その際に、インドネシア版のエアフォース・ワンで来訪しました。これは、以前ですと、ガルーダ航空などの民間機をチャーターして地方訪問等を行っておりましたが、SBY 政権時代に政府専用機の導入行われ、2014 年 4 月 10 日にハリム空港へ納入された飛行機です。機体は B737-800 をベースとした BBJ2（ボーイング・ビジネス・ジェット２）を VIP 仕様に改造したものです。この B737 シリーズは、ジェット機でもリージョナルジェットよりも大きなものの、比較的小型の機体で皆様おなじみの LION 航空や日本でも国内線など短距離便に多用されている機体で、多くの運用実績のある機体です。ただし、長距離は向かないため、EU 方面や USA 方面などの外国訪問の場合は、ガルーダ航空などが保有する B747 や B777 をチャーターするか、途中で給油等が必要になると思います。最終的に 2 機導入予定ですが、予備機は無く今のところ 1 機体制となっています。

ちなみに、日本の政府専用機は、B747-400 がベースとなっており、長距離の移動も可能で、しかも２機体制で外国訪問時などは、別の一機が近隣空港で待機するなどアメリカの大統領機を手本にした運用を取っています。しかしながら、インドネシア政府としては、B737-800 のほうが機体価格はもとより燃費の良さなど、あらゆるコスト面で優れていますので、国内訪問を主眼に置いた運用だと思います。

アメリカの大統領専用機 VC-25（B747-200 ベース）や日本の政府専用機、インドネシアの政府専用機など各国の政府専用機には、特別な改造が施されています。といっても、武装関係は装備されていません。これは、飽くまで旅客機がベースですので、戦闘機と違って、俊敏な機動や背面ロールして、敵機の後ろを取るなどというようなことは、そもそも無理で戦闘は考慮されてないためです。しかしながら、ミサイル警報装置（ミサイルの高熱や照準レーダ波を探知する）や妨害装置（妨害電波のほか、フレア＝照明弾のように高熱を発する囮の放出、チャフ＝ミサイルの追尾レーダ波長にあわせた微細な金属片をばら撒き作った雲によるレーダかく乱）は搭載しているといわれています。また、通信関係が充実しており衛星回線などで、本国といつでも暗号化回線で通信でき会議室も備え TV 会議などが出来るようになっていることも特徴の一つです。

更に、アメリカにおいては、大統領専用機は空中給油にも対応し、機内から軍事行動などの指揮（核ミサイルの発射も含めた）が可能とされています。特に、核ミサイルの発射は、大統領機から E-4B というこれもアメリカ大統領専用機と同じ B747-200 をベースにした国家空中作戦センター(NAOC)を中継するか、または、大統領も直接 E4-B に乗り込み指揮を執ることになります。E-4B はあらゆる軍事基地やミサイル潜水艦とも通信できる装置を備えています。特に弾道核ミサイル

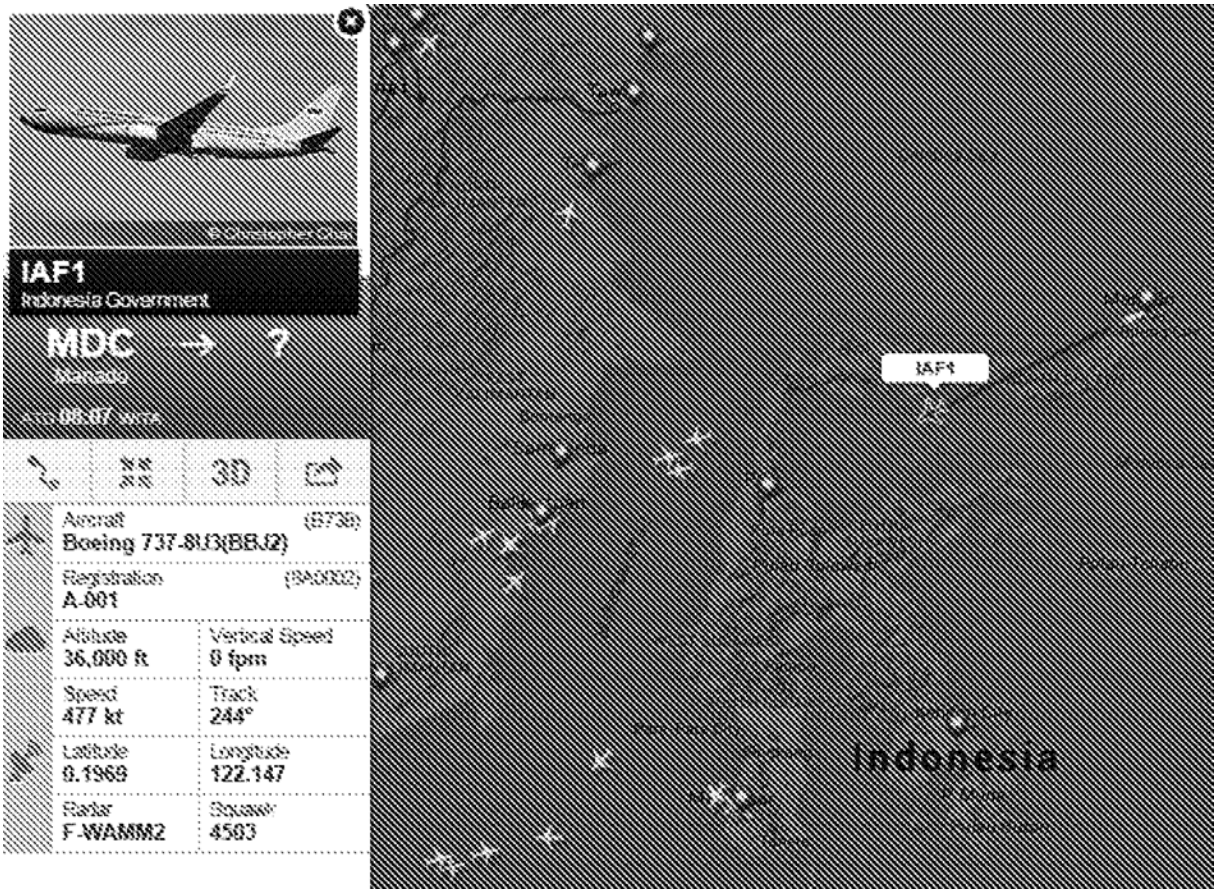
搭載のミサイル潜水艦との通信にいたっては、6km ものVLF(超長波)通信アンテナケーブルを飛行中に機体後尾より展開・曳航して、潜航中の潜水艦とも通信できます。(VLF の電波は海中へも到達するのです) したがって、アメリカ大統領が外国訪問のときは、有事に備え大統領専用機だけでなく同型の予備機と更にE-4B が必ず近隣空港に待機することになります。それだけでなく、大統領専用車両や警備車両などを積んだ軍用の C-17 輸送機などと整備員やコックまで含めた大規模なものになります。当然、大統領専用車にも予備車があり、複数台で違う道を走行して目的地へ急行することでどれに本物の大統領が乗っているかわからないようにすることさえもあります。こういった運用体制は、アメリカ以外は、まねができないところです。

少々、話が、脱線しました、とにかくアメリカは別格です。

さて、インドネシアの話に戻しましょう。

大統領搭乗時は、コールサインをＩＡＦ１（インドネシア・エアフォース・ワン）としているようです。非搭乗時はＡ１としているようです。ハリム空港を拠点に、大統領が使用しないときはＡ１のコールサインで訓練等を行っているようです。

では、実際にマナドから飛び立った、ＩＡＦ１を見てみましょう。



マナド（サムラトランギ国際空港を飛び立ったＩＡＦ１）※Flightrader24 より

上記の画面ですが、この後、ＩＡＦ１の応答装置はＯＦＦになり、画面上から消えています。恐らくＰａｌｕに向かったものと思われます。なぜＯＦＦになったのかは、後ほど説明しましょう。

続いて、次の画面は、パダン方面へ訓練飛行している様子ですが、空港に近づいた時点で応答装置をＯＦＦにしているのがわかります。また、コールサインもＡ１に変化していることがわかると思います。（軍用機はこの辺は任意に変更できますので、ガルーダ機に偽装したりも出来ます）

ここから予測
位置を示す点線
にっている

ところで、2014 年 7 月 17 日にマレーシア航空の MH17 便がウクライナの親ロシア派が 9Ｋ37 ″Ｂｕｋ″より放ったミサイルに（SA-12）に撃墜されましたが、目標を補足した時点で行う敵味方識別でも、応答装置からは、MH17 をはじめとした各種とデータが送信されるので通常、民間機と識別されますが、識別を行わなかったのか、出来なかったのか、あるいは、民間機に偽装していると判断したのか・・・真相はわかりませんが、このようなわけで、応答装置の応答内容は変更可能ですが、VIP 機にはミサイル防御も必要になります。

さて、自国で専用機を持つということは、単に、大統領の職務の利便性、迅速性だけでなく、国威啓発や威信、また国民の希望にもつながることだと思います。(日本の場合は、貿易黒字などの圧力で2機を約360億円で購入させられたので、そうではないかもしれませんが、次期専用機は、2019年就航予定で、コストやメンテナンスなどを考慮してB777-300ERになる予定です。現実的な選択だと思います。)

ところで、政府専用機がこのように、インターネットでお手軽に表示されて良いのかというセキュリティ上の懸念を感じる方もいらっしゃると思います。しかし、ここに表示されるのは飽くまで2次レーダの応答コードを基にしたもので、前述したように、政府専用機や軍用機は、このコードを自由に変更でき、また OFF（つまり応答しない）にすることもできます。ちなみに、民間機でも、ヒューズボックスの応答装置関連のヒューズを抜くとかブレーカーを落とすとかで応答装置をOFFにできますが、民間機の場合は、当然、故意にやってはいけない事になっています。

この応答装置は、実は衝突防止装置（TCAS）などとも関連しており、TCASは、近くの航空機の応答装置が発する信号を受信して、衝突コースにある場合は、上昇か下降かどちらかの指示をパイロットに発します。パイロットはこの指示に従う決まりになっています。

さて、専用機の動きを観察してみますと、実際に着陸進入時や離陸時には応答装置をOFFにしているようです。インドネシア軍はロシア製の携帯対空ミサイル(9K38《Иｒｌａ´》)も装備していますので、軍と関係のある政敵が、武器庫からいくつか紛失させ、使う危険もあるかもしれません。携帯型対空ミサイルは、射程が5km程度ですが、着陸侵入時などに攻撃されると危険です。

携帯ミサイルは、いつでも撃てそうでお手軽な感じですが、実はそう簡単ではありません。

まず、電源ですがバッテリーはセットして1～2分しか持ちません。実際は熱電池というバッテリで内部に発火剤が入っており、それが燃焼することで、数百度の高温になり、固体電解物質が融解し電力を供給できるわけです。つまり、火が消えて冷えてしまうと電力はなくなります。利点は長期間保存可能な点と大電力を供給できる点です。また、同時にバッテリユニットには、冷却用液化ガス（液化アルゴンなど）も入っており、発射直前に、バッテリーユニットをセットすることで、電力供給（照準器とミサイル本体へ）を始めるとともに、ミサイルの、追尾センサーを液化ガスで冷却します。冷却することで、ノイズを減らしセンサーの感度を向上できるのです。

発射のタイミングを逃したりすると、バッテリユニットごと取り替えなければなりません。

発射する場合、目標をロックして引き金を引く・・・ゲームのような感じですが、実際は、射程も5kmほどですので例えば高度10000m(FL300)を巡航中のときなどは、直上でも届きません。また、熱を感知して追尾するので、ロックのときエンジンの排気熱が見えないといけません。色々制約があります。事前に後どれぐらいで通過するかなど情報がないと難しいのです。実際の運用においては、観測員が十数キロ先で目標を連絡するとか、レーダ車両で確認するなどが必要です。

従って着陸態勢に入るときに2次レーダへの応答装置ＯＦＦにするのは、いつ頭上を通過するかの予測が難しくなるので、結果、準備が難しくなるということから、有効な方法だといえます。

もちろんレーダを使ったり、専用のレーダ搭載の中～長距離の対空ミサイル車両ですと応答装置をＯＦＦにしても、先の MH17 撃墜事件のように、あまり意味がありません、この場合応答装置の有無に関わらず、探知でき、遠方からミサイルを発射できます。ただし、大掛かりなので、万一この方法ですと事前にばれたりする可能性も多いでしょう。しかし、このような不測の事態も想定して、ミサイル防御装置を備えているわけです。

一応、日本や米国では、上記のような対応だけでなく、Flightrader24 に働きかけ（圧力をかけ）て、自国の政府専用機が発する信号をプロット（表示）しないように働きかけています。テロリストや政敵にとって、あまり効果は無いかもしれませんが、少しでも懸念事項となるものはつぶしておくという考えでしょう。

怖い話はこれぐらいにして、次は、専用機の中がどのようになっているのか、インターネット等を駆使して調べてみました。

まず気になるお値段ですが、Rp だと桁がすごいので契約時の USD で機体総額が 9120 万ドル、そして、その内訳は、ベースとなる機体が 5860 万ドル、内装に 2700 万ドル、セキュリティシステム（ミサイル回避妨害装置など）に 450 万ドル、管理費として 110 万ドルとなっています。

内部は 4 つの会議室と、大統領の寝室、2 つの賓客室、12 席のエグゼクティブ席、44 のスタッフ席からなっているそうです。(座席数や間取りは変更できるので、例えば、自国難民救出ミッションなど使う場合は、エコノミークラスの座席相当でシートを敷き詰める事も出来るでしょう。)

性能は、CFM56-7 エンジン２基で上昇限度 41000 フィート、巡航速度マッハ 0.785、最高速度マッハ 0.85、航続距離は 4620nm(8556Km)ということです。空中給油は出来ませんが、ハリム空港からインドネシア国内ならどこでも無給油で直行できます

インドネシア大統領専用機　（ A-001 / 8A0002 ）Wikipedia より

内部イメージ（ボーイング社 BBJ より）※IAF1 実機とは異なります。

貴賓ブース・随行する閣僚同士の談話や
小会議などに、、、（イメージ）

大統領夫妻用のベットルーム（イメージ）

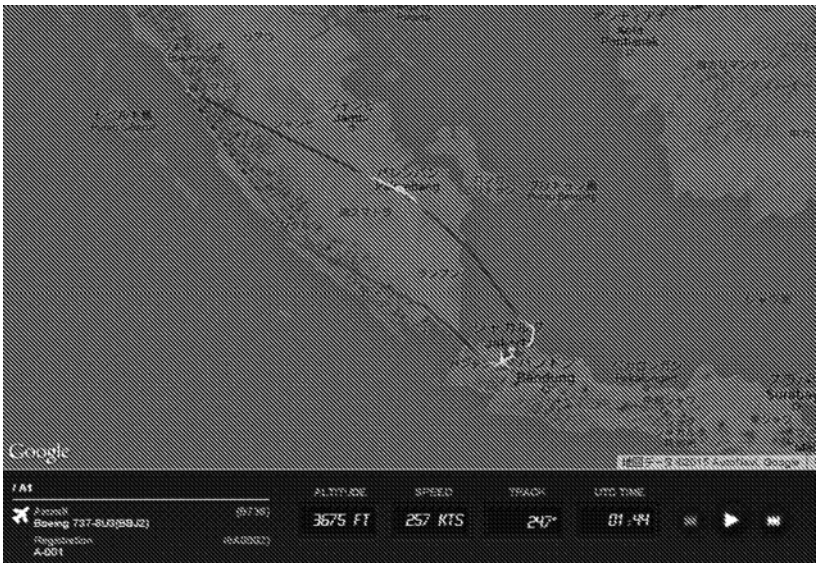
会議室、大統領・閣僚を交えた訪問計画や
災害等の作戦会議を行うのに最適
また TV 会議などで地上との会議に参加する
なども可能（イメージ）

随行員セクション
写真はビジネスクラスシートであるが、
自国民避難ミッションや、マスコミなど
はエコノミー仕様のシート 3-3 列で収容
人数を増やすことも（イメージ）

実際と異なりますが、IAF1 のベースとなるボーイング社の BBJ を購入する VIP 向けの提案内装ですので、装飾等は多少違うでしょうが、恐らくこのような設備があるものと思われます。

ジャカルタ近郊での日ごろの訓練の様子　（訓練では A1 というコールサインを使っています。）

ジャカルタ近郊での急旋回などの機動訓練の様子
通常の旅客機でこのような急旋回を行ったら、乗客からブーイングの嵐となるでしょう、
しかし大統領機では不測の事態への備えと機体の極限を知る必要があるためだと思われます。



スマトラ方面（ジャカルタ⇒パダン⇒パレンバン⇒ジャカルタ）の飛行
パレンパンでは滑走路に着陸するかのように通過し、その後すぐに飛び立っています。
これは、現地の下見など事前の予行と思われます。

大統領が使用しないときは、このような訓練が頻繁に行われ、常に万全の体制でスタンバイしていることが伺え、何かとルーズなインドネシアでも、しっかりした運用を行っていると感心しました。

インターネット速度改善術（Windows7 編）

中村　高太郎

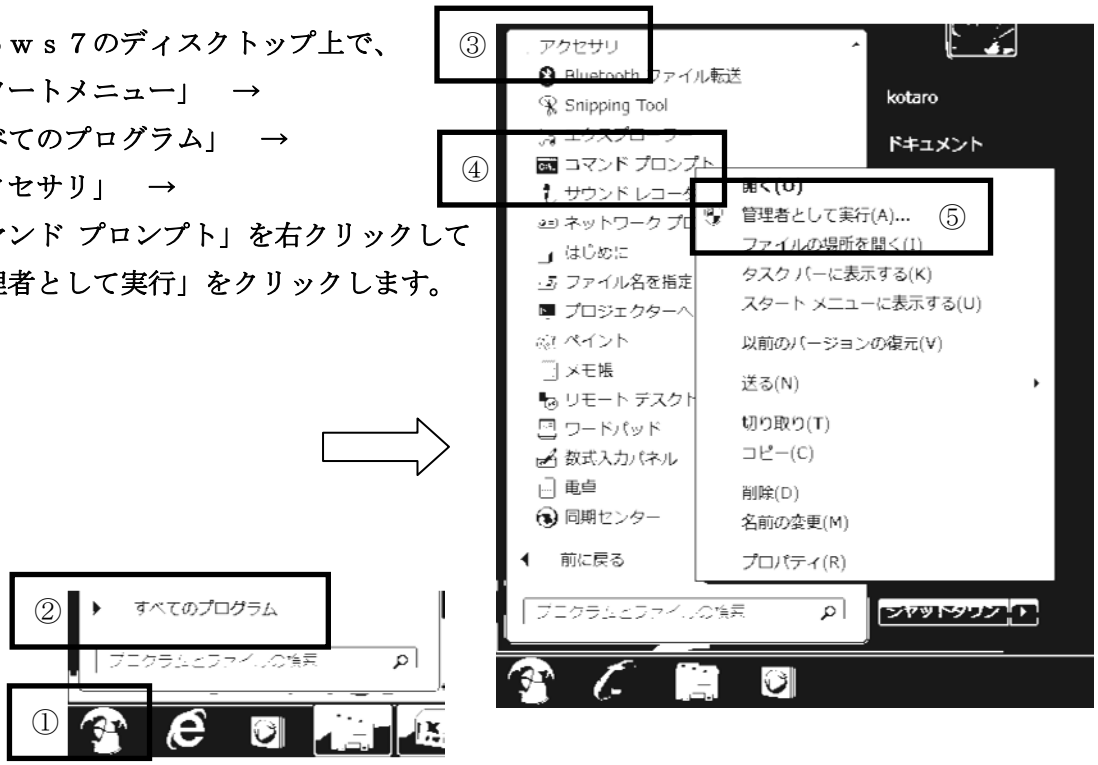
※すべてのＰＣやインターネット環境で速度が改善されるわけではありません。
※Windows7 を対象としています。それ以外ではサポートされません。

会員の皆様こんにちは、中村です。
インドネシア・北スラウェシでは、インターネットの速度が日に日に遅くなっていると聞きます。そのような中で、少しでも改善する方法がないか、探してみています。その中で、誰でも手軽に出来る方法を紹介したいと思います。
実施前に、速度の測定サイトなどで測定しておくと良いでしょう。
速度測定サイトの例：　http://www.speedtest.net/

それでは、実際の改善方法については、以下の手順で実施します。

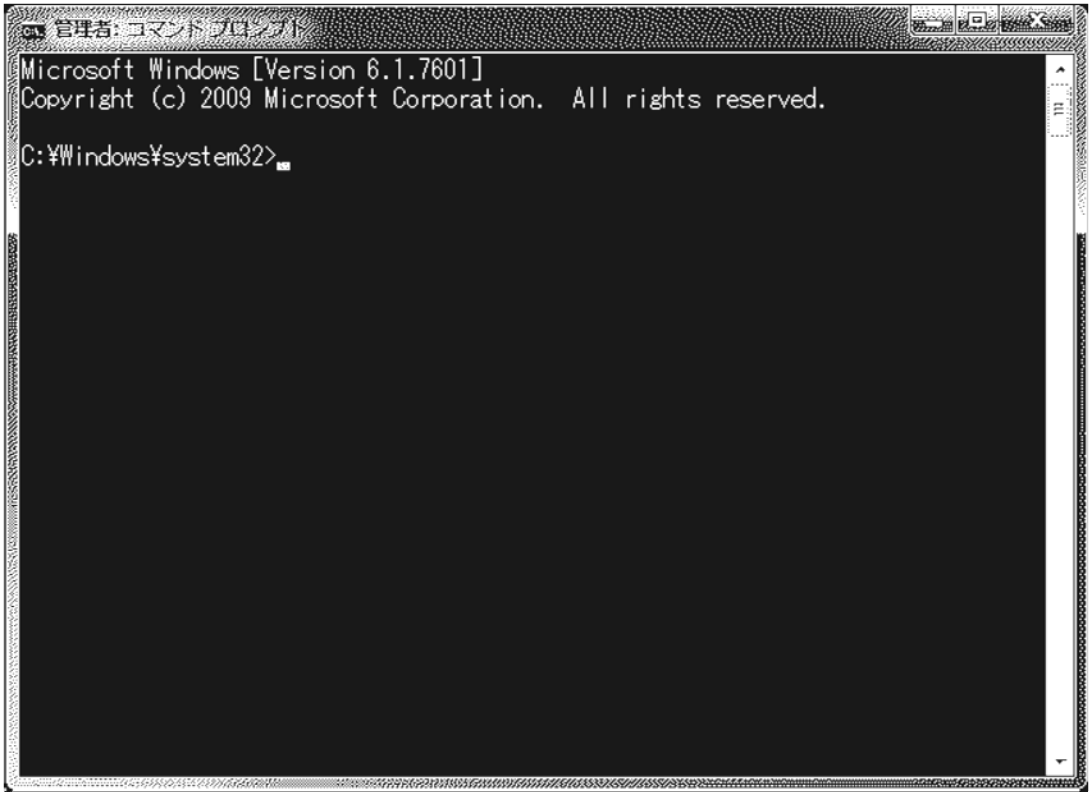
■コマンドプロンプトを管理者モードで開く

Ｗｉｎｄｏｗｓ７のディスクトップ上で、
①「スタートメニュー」　→
②「すべてのプログラム」　→
③「アクセサリ」　→
④「コマンド プロンプト」を右クリックして
⑤「管理者として実行」をクリックします。



すると、下記のように確認画面が出ます。

ここでは、「はい（Y)」をクリックして下さい。
そうすると以下の画面が表示されます。



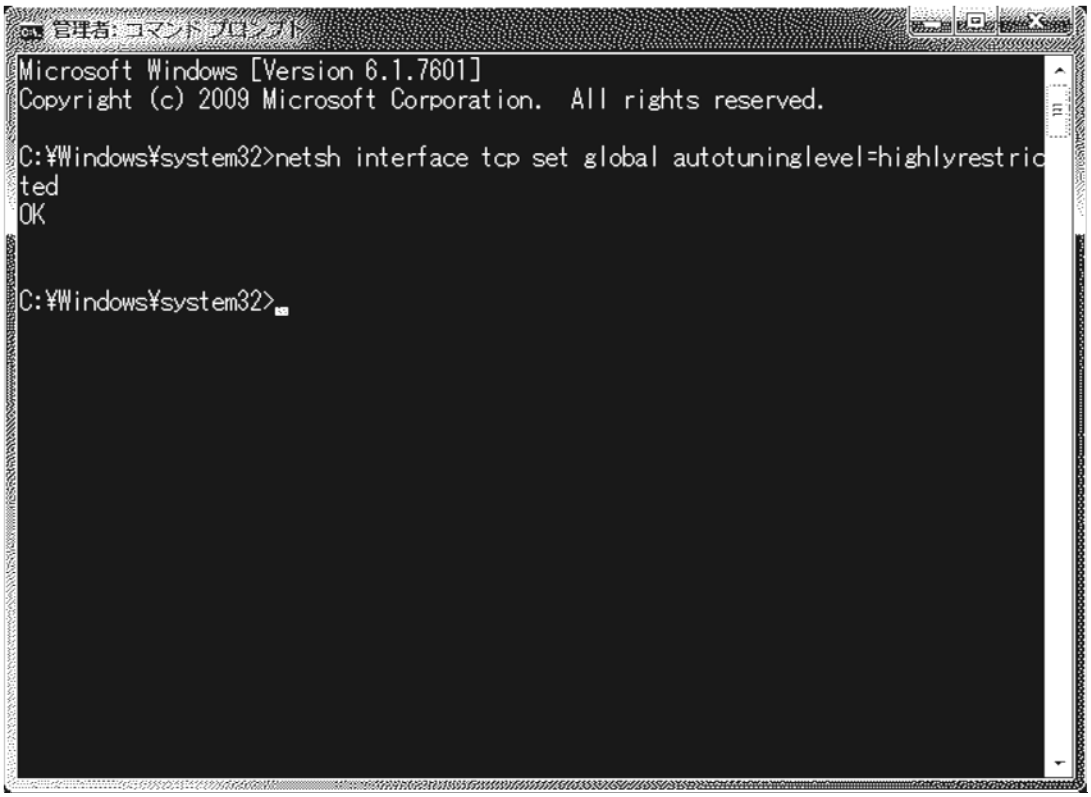
上記の画面が表示されたら、次のページのコマンドを入力します。
コマンドは全部で２つあります。

■１つ目のコマンドを入力

次のコマンドを入力します。

netsh interface tcp set global autotuninglevel=highlyrestricted

入力後「Enter」キーを押します。



上記のように OK が表示されれば、成功です。右上の X ボタンをクリックして閉じましょう。

コマンドの説明

このコマンドは、受信ウィンドウ自動チューニングレベルの変更コマンドで、インターネットからのデータを受信する場合のデータの窓口となる部分のサイズを調整するという意味です。上記コマンドでは =highlyrestricted を指定していましたが、この部分は、他にも以下のようなオプションがあります。

=disabled	：チューニング無効
=highlyrestricted	：かなり制限されたチューニング状態
=restricted	：一部制限されたチューニング状態
=normal	：既定のチューニング状態

もし、=highlyrestricted で遅くなった場合、= disabled を試してみることも可能性があります。いずれもだめな場合は、=normal で元の設定に戻しましょう。

受信ウィンドウとは？

受信ウィンドウとは、一種のバッファメモリです。といってもなかなか、意味をつかみにくいと思います。

IT 用語辞典などで調べてみますと、
「インターネットで標準的に用いられるトランスポート層のプロトコルである TCP などで採用されている、効率的なデータ転送の方式の一つ。「ウィンドウ」(window)と呼ばれるバッファメモリ領域を確保して、大きな単位でデータを転送する方式・・・」
とあります。
これを読むと・・・要は受信ウィンドウ⇒受信バッファメモリという風にさらに分からなくなってきました・・・これだからコンピュータは苦手という人が増えるんですね。

身近な例で、簡単に例えてみましょう。
まず、病院を思い浮かべてみましょう。病院には医者が居る診察室・治療室なんかがあります。また受付や待合室もあります。受信ウィンドウとは待合室のようなものです。
外来患者が、やってきて、いきなり医者に診てもらえることは、よほど空いてない限り、なかなかありません
ここで、医者は、あなたの PC ということになります。外来患者は、インターネットのデータですね。病院の玄関の外の道路はインターネットの回線とでも考えてください。
さて、重要になるのは待合室の広さです。これは、おそらく、医者の患者を処理する能力と外来患者の来院数によって決まってくると思います。
インターネットの世界でも、これと似たようなイメージです。
ただし、PC では受信ウィンドウにある程度データが到着して、データを処理します。

つまり、PC の能力はそこそこあり、広い受信ウィンドウで待ち構えても、データがちょっとづつしか来ないようであれば、効率が悪くなります。逆も同じです。

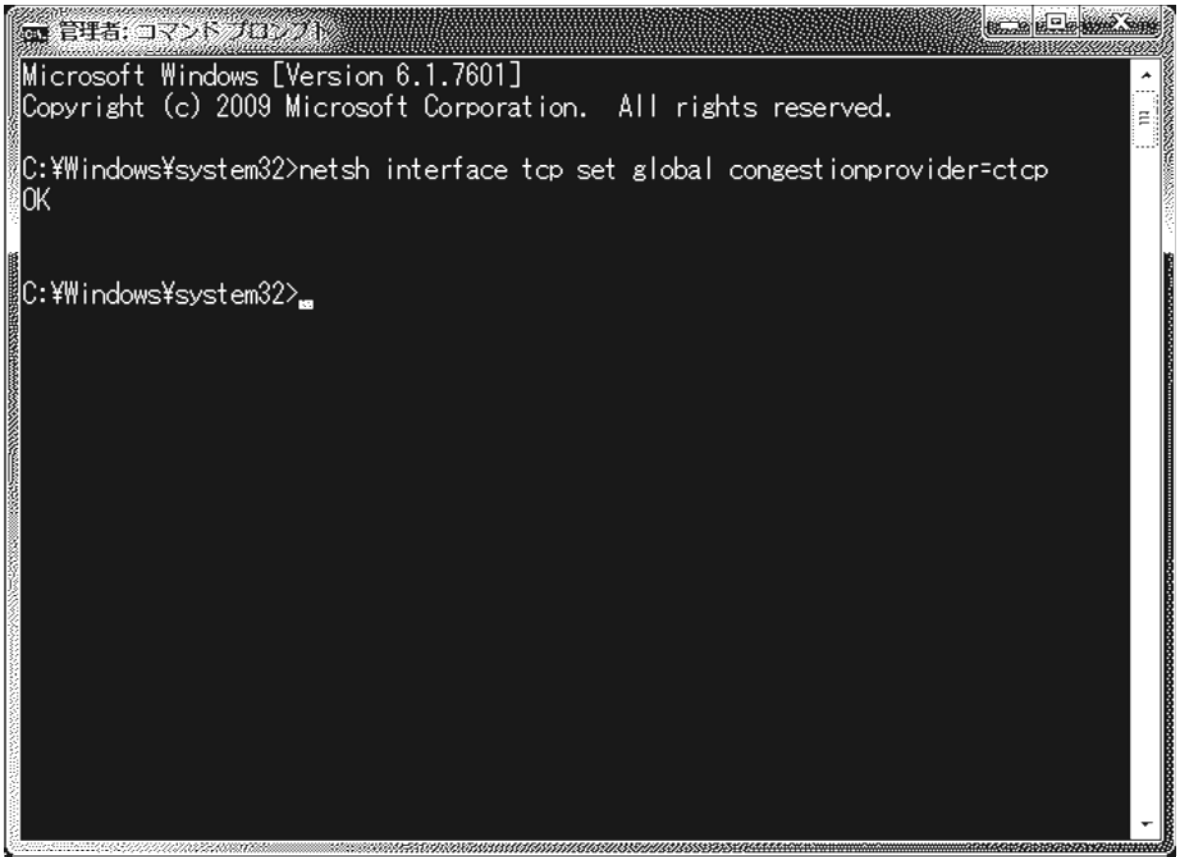
したがって、前ページのコマンドで設定を変更すると、この受信ウィンドウの大きさの調整方法が変わります。いくつかのパターンで早くなるものを見つけて下さい。

■２つ目のコマンドを入力

２つ目のコマンドは、再度「コマンドプロンプトを管理者モードで開く」を実行して、再度コマンドを入力できる状態にした上で次のコマンドを入力します。

netsh interface tcp set global congestionprovider=ctcp

入力後「Enter」キーを押します。



上記のように OK が表示されれば、成功です。右上の X ボタンをクリックして閉じましょう。

コマンドの説明

このコマンドは、アドオン輻輳制御プロバイダーの設定コマンドで、通信の輻輳（混雑）を避ける為の制御を行う設定です。

=ctcp：ctcp を有効にする

=none：標準を有効にする

=default：既定（=none）

もし、= ctcp で遅くなった場合は、 =none で元に戻しましょう。

輻輳制御とは？

まず、輻輳というのは、どういうものでしょう。
身近な例で言うと、「ただいま電話が混み合っております。後ほどお掛け直し下さい」といったアナウンスを１度や２度ぐらい、聞いたことがあるかと思います。
例えば、チケットの発売日とか、大きな地震があって、みんな電話を使おうとしている場合に起こる現象です。こういった現象を輻輳と言います。
電話局内の電話回線は、電話契約者全員分を用意しているわけではありません。
それは、一般に、通常、全員が電話を使う事などあり得ないからです。
したがって、１０世帯に１本ぐらいの通話を処理する回線能力で十分なわけです。

余談ですが、実際に何世帯でどれぐらいの処理能力を割り当てているかは、電話会社のノウハウなので極秘です。また現在は光ファイバ可し回線を重畳したり、またインターネット復旧に伴い音声信号も IP 化（※音声チャットや IP 電話とは厳密には違います）してきています。

さて、インターネットに話を戻すと、インターネットも例えば契約容量１Mbps とか 10Mbps とかで料金が違います。この１Mbps というのは帯域幅といって、値が大きければ、大きいほど、通信能力が高く高速になります。
さて、Web サイトを開くと例えば Facebook などですと写真がいっぱい出てきます。
この時、１ページの全部の写真をほぼ同時に Facebook のサーバから受信しようとします。
この時、帯域が細いと、この通信が、混み合って、輻輳することになります。
そうすると、PC の中で自動的に２枚ずつとか４枚ずつ開くとかで同時にアクセスする分量を制限するわけです。いわば、交通整理と言いますか信号機の役目と言いますか、そのような、制御を行う仕組みです。

帯域が広い場合や通信量が少ない場合、この輻輳についてはあまり考慮しなくて良いかもしれません。（逆に輻輳制御すると、その分、処理時間のロスが発生します。）しかし、帯域が細い状態で色々な通信を行う場合、、通信が集中してしまうので順番を守って貴重な回線を、効率的に使う必要があるわけです。

■設定がきちんと出来たか確認

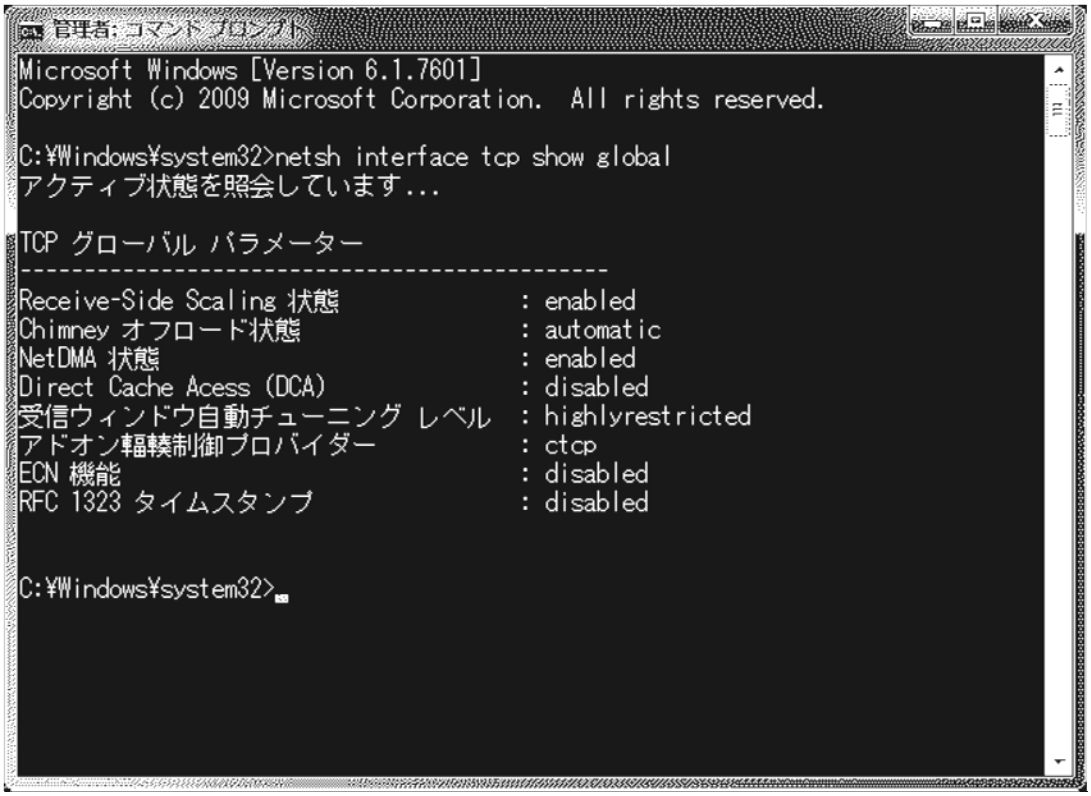
念のためにPCを再起動しましょう。

再起動後、確認のために、再び、「コマンドプロンプトを管理者モードで開く」でコマンドを入力できる状態にして、次のコマンドを入力します。

netsh interface tcp show global

次に表示される画面になっていれば、成功です。

設定値の確認画面



問題なければ、最初のページにあったスピードテストをして、速度の変化を比較してみましょう。注意点として、

- 契約した速度以上出る事はありません。
- 既に可能な速度が出ていた場合は、変わらないか遅くなる場合もあります。
- 設定の有無に関係なく、刻々と変化する時間帯や環境（xDSL の場合は、湿度や雨など電話線等に及ぼす環境によっても）によっても速度は変わります。

なお、問題がある場合は次のページに元に戻す方法がありますので参照ください。

■設定を元に戻す場合

もし、遅くなった場合は、戻す方法として、先に入力した２つのコマンドと同じ要領で、次の二つのコマンドをそれぞれ入力し Enter キーを押してください。

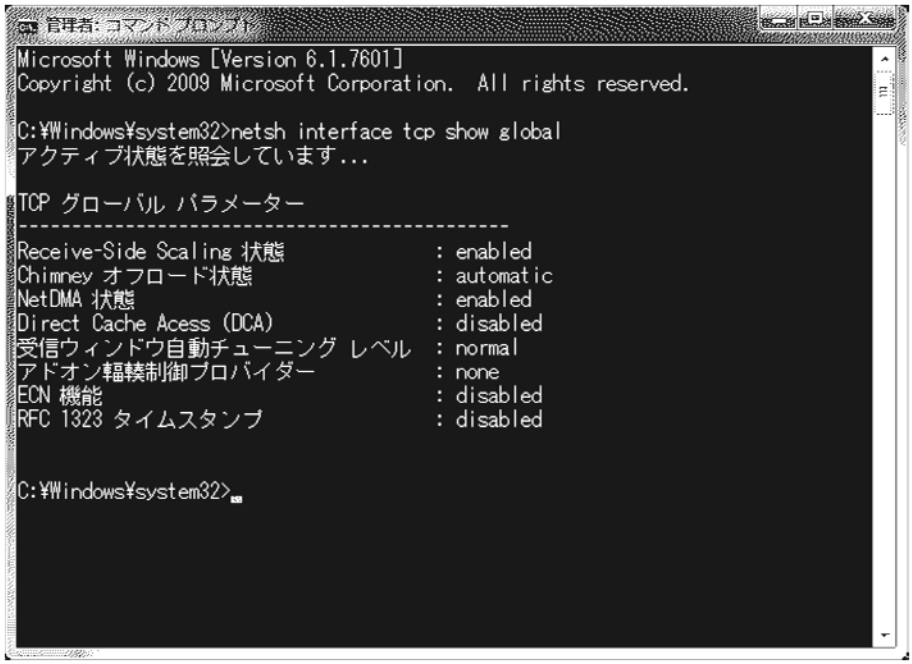
●コマンド１

netsh interface tcp set global autotuninglevel=normal

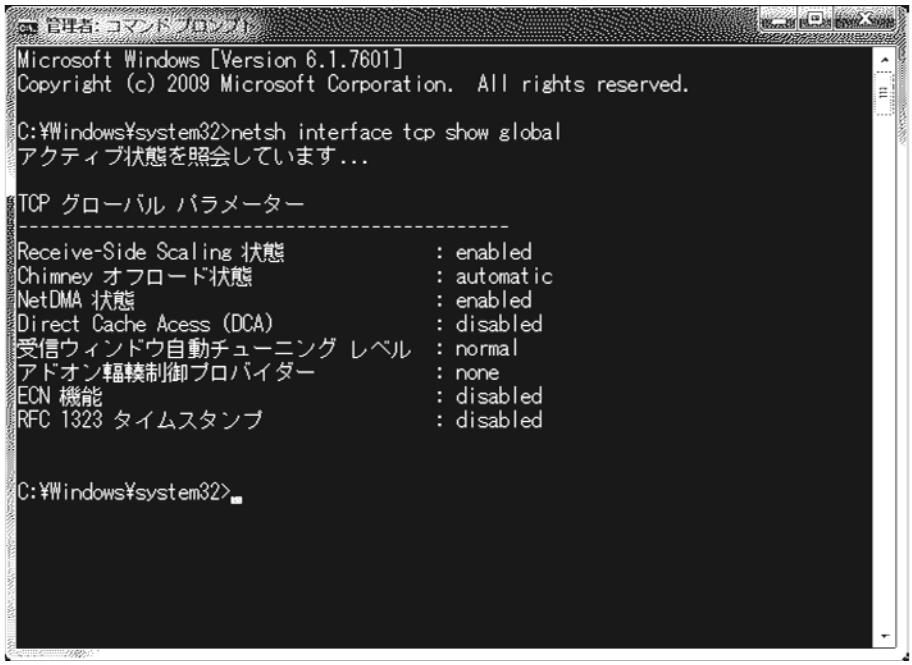
●コマンド２

netsh interface tcp set global congestionprovider=none

●コマンド入力後の、 netsh interface tcp show global コマンドによる設定値確認



●参考）標準状態での netsh interface tcp show global コマンドによる設定状態



以上で、インターネットの速度改善の紹介とさせて頂きますが、上記方法は、インターネット上でも広く公開されております。

効果の程は、各 PC やインターネット環境によって大きく違うようです。
光回線のような高速環境で大きく改善（例：30Mbps⇒60Mbps）することもあれば、あまり効果が無い場合もあるようです。また低速な回線でも改善（例：0.5Mbps⇒1.2Mbps）したという事例もあります。

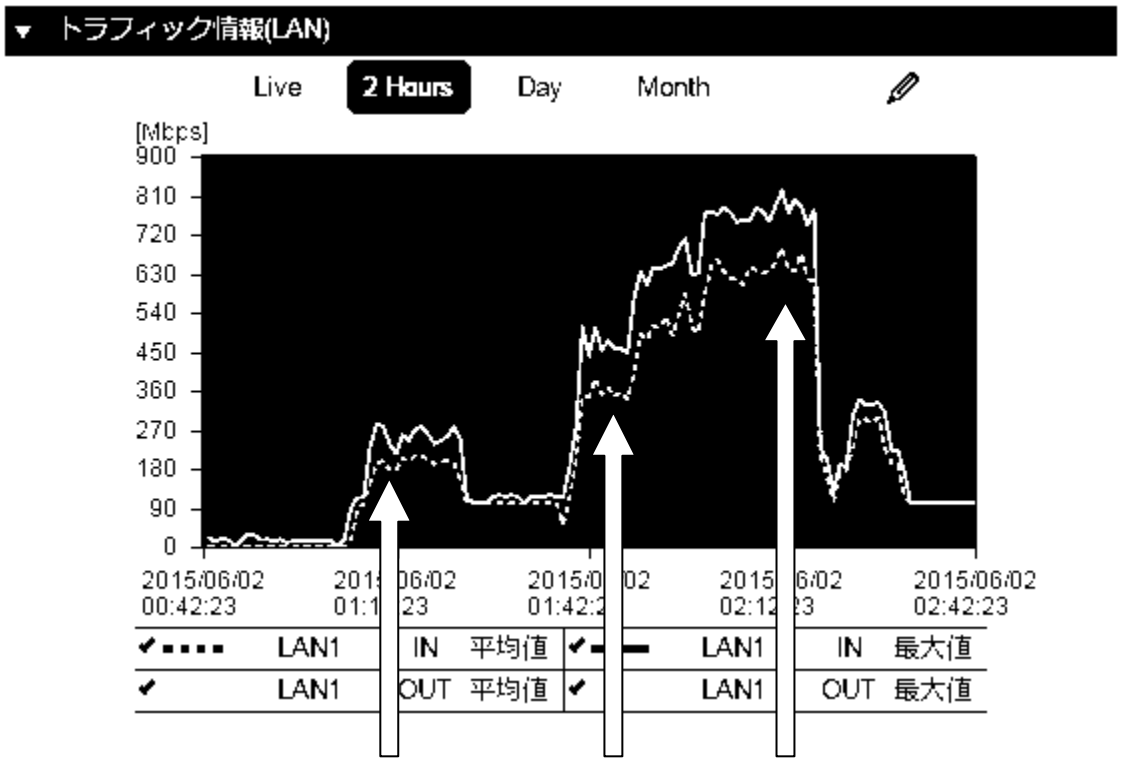
インドネシアは元々、インフラ整備も遅れているところですが、私個人の見解では、インフラは、割と最新の設備等が、導入される印象がありますが、特に維持保守という部分で非常に悪いという感じを受けます。おそらく、上層部では、維持保守に関わるコストを計上していても末端に行くまでになくなってしまうのでしょう。壊れてないから、その予算は自分たちのものにしてしまおうと言うわけでしょう。日頃の確認や壊れてはないけれども小さな補修といった、日本では当たり前のメンテナンスが行われて無く、壊れて初めて修理に動き出すという印象です。これらは、電力、道路、水道設備などすべてに共通しているようです。

日本では、光回線で 1Gbps(1000Mbps)の回線が、約６～７千円／月で導入できます。
勿論速度も、相応に高速で、通信量もほぼ無制限です（送信のみ１５GB／日の上限を課しているところが多いです)。
しかしインドネシアでは、日本とほぼ同額を払っても、1Mbps～3Mbps 程度のクオタという通信料の制限のない無制限のプランしかありません。又、契約したとしても、時間帯によっては、速度も、契約速度の１／１０以下になったりという事も普通にあるようです。

今回、一般的な設定コマンドを掲載しましたが、いくつかのオプションがあります。
環境によって、色々試してみて一番早くなる組み合わせを見つけると良いでしょう。
なお、契約帯域以上に速度が向上することはありません。また、実際に速度向上にならず逆に遅くなる場合もあります。(設定の組み合わせを試すか、元に戻して下さい。）また、向上してもマナドの場合、例えば 512Kbps が 768Kbps 程度に向上したなど微々たるものかもしれません。その点はご理解下さい。

個人の力でインドネシアのインフラを改善する事は難しいと思いますが、今回紹介させて頂いた方法で、皆様のパソコンのインターネット速度が少しでも改善できればと思います。

＜参考＞　私の場合、どの程度改善したか参考値を挙げておきます。



改善前
約 180Mbps
（平均値）

パラメータの
調整で最適な
組み合わせを
選定中

改善後
約 630Mbps
（平均値）

上記のグラフから、私の場合は、約 3 倍の改善となりました。マナドの状況ですと、恐らくこれの 1/1000 ぐらいのスピードかもしれませんが、例えば、マナドで、180Kbps ぐらいしか出てなかったものが、630Kbps ぐらいに改善するかもしれません。

ご利用年月:2015年6月分

日付	上り通信量	下り通信量	通信量合計
06/01	23,036,270,728 byte (21,969 MB)	515,614,912,869 byte (491,728 MB)	538,651,183,597 byte (513,697 MB)
06/02	16,657,469,639 byte (15,885 MB)	650,159,493,461 byte (620,040 MB)	666,816,963,100 byte (635,926 MB)
06/03	4,967,881,316 byte (4,737 MB)	315,151,395,685 byte (300,551 MB)	320,119,277,001 byte (305,289 MB)
06/04	17,044,057,626 byte (16,254 MB)	1,018,489,455,226 byte (971,307 MB)	1,035,533,512,852 byte (987,561 MB)
06/05	16,521,618,843 byte (15,756 MB)	1,012,425,114,042 byte (965,523 MB)	1,028,946,732,885 byte (981,280 MB)
合計	78,227,298,152 byte (74,603 MB)	3,511,840,371,283 byte (3,349,151 MB)	3,590,067,669,435 byte (3,423,755 MB)

今回の通信テストを行うにあたって、6/4、6/5 では 1 日だけで、それぞれ約 1TB(≒1000GB)もの通信量になってしまいました。（上記の通信量は、8GB のダミーファイルを送受信する通信テストでの通信量です。違法な海賊版ファイルの送受信ではありません。念のため。）

＜雑学＞
　最近は、ノートPCやパソコンで、ネットワークポートが標準で１Gbps（１０００Base-T　または Giga-Ether）対応になってきました。

　ネットワークケーブルは、いくらでも長く伸ばせるものではなく、機器間で最長１００ｍという決まりがあります。

　さて、ここで、１Gbpsというのはどれぐらいの速さなのか見ていくことにしましょう。
　１Gbps　＝　１０００Mbps　＝　１，０００，０００，０００bps
ということになります。これはどういう値かというと１秒間に１０億ビットつまり、１秒間に０と１で構成されたデータを１０億個送る事が出来るという意味になります。なんか大きい数だなぁ・・・と漠然とした感じですね。

　そして、データは電気信号で送られますから、１はON、０はOFFという具合にして送られます。（基本はそうですが、実際は、もっと複雑です。）そして、電気信号は、ほぼ光の速度と考える事が出来ます。ここでは、光は１秒間に地球を７周半することが出来るというのは、皆様もどこかで聞いた事があると思います。地球は１周約４０，０００ｋｍですから１秒間に光は、大雑把にですが、約３０万Km進む事が出来るわけですね。

　そうしてくると、光の速さと、１秒間に１０億ビット送る場合は、どういう関係や影響があるでしょうか？ここでも出来るだけ、簡単に考えてみましょう。１秒を１０億で割ると、１０億分の１秒つまり０．０００００００１秒＝１ナノ秒という事になります。ミリとかマイクロとかの単位は聞いたことがあると思いますが、ナノはあまり聞くことはないですね。でも、最近は、化粧品などでプラチナ「ナノ」コロイドとか、ナノのつく言葉はあるにはありますね。
　それでは、光は１秒で３０万Km進むでしたが、１ナノ秒ではどれぐらい進むでしょうか？
　３００，０００，０００ｍを１０億で割れば良いので、０．３ｍ／ナノ秒という事になります。つまり１ナノ秒で３０ｃｍ進むわけです。

　ここで話を戻して、英数文字は８ビット（０と１の組み合わせが８個）で表現されます。つまり「a」という文字を送るには８ビット＝８ナノ秒必要になります。それでは、今まさに、「konnichiwa」という文字をパソコン１から５０ｍ離れたパソコン２へ、１Gbps の LAN の通信回線で送ったとしましょう。どうなるでしょうか、まず、「konnichiwa」は、１０文字なので８０ビット必要です。つまり８０ナノ秒必要です。さらに、光の速さを考えてみると、０．３ｍｘ８０ナノ秒＝２４ｍのデータになります。
　つまりパソコン１がデータを送り出した直後は、まだ、パソコン２にデータの先頭が到着しておらず、ケーブルの中をどんどん進んで、先頭は、残り２６ｍというところです。

不思議な感覚を覚えるか、当たり前だろと思うかは、人それぞれですが、、、
（この後に後述しますが、実際は、わざと上記のような状況に、ならないようになっています。なぜそのような状況がダメなのかや、そうならないようにする方法はこの後をご参照下さい。）

さて、ここまで高速になってくると、色々な制約が生まれてきます。我々は、事務所などで、ケーブルでパソコンと HUB を繋げればパソコン１，２，３，４・・・・と何も考えずに、繋げていく事が出来ます。しかし、実際は、例えば、パソコン１とパソコン３がほぼ同じ時刻（数ナノ秒以内）にパソコン２にデータを送ってしまった場合、データが衝突してしまう事になります。（あり得ないような感じですが、実際には良く起こり得ることです）

上記の例で行くと、パソコン１は（おそらくパソコン３も）データを送信してしまった後なのでデータが衝突して滅茶苦茶になった事は分かりません。勿論、衝突検出信号があるので、衝突したことは分かりますが、すでにデータを送り出した後のことなので、これでは、どのデータが壊れたのか判別がつかない事になります。そこで、「キャリアエクステンション」と呼ばれる手法で、４０９６ビット以下の短いデータには意図的にダミーデータを追加して合計が４０９６ビットになるように調整しています。（勿論、内部的に通信機器間で自動で行われます。当然ダミーデータの分通信の効率は落ちますが、信頼性維持のために必須です。）そうする事で、通信完了後に遅れて衝突を検出する事もなくなるというわけです。

ホントに色々な工夫がされていますね。

＜＜注意喚起＞＞
本ページでは、パソコンをインターネットで使う上での重要な注意喚起を行います。

最近は、日本の銀行でも、インドネシアの銀行でもネットバンキングが充実してきました。しかし、ここに思いがけない罠が潜んでいる可能性があります。インターネットバンキングを行っている方や、過去にインターネットバンキングを行ったことがある方（ＰＣに情報が残っている可能性があるため）は、十分に注意してください。また、あまりしないから大丈夫だろうと言うのは、いつもしているのと同じで、危険度に頻度はあまり関係ありません。むしろその根拠のない安心が命取りでしょう。実際に、どのようなも罠があるかといいますと、、、

本当の銀行に似せて作った、ＵＲＬとそっくりのＷｅｂサイトを構築し、ログイン画面でパスワードなどを、取得する方法や、乱数表や、暗号カードの内容を、全て入力させるような画面や、ワンタイムパスワード（毎回変わるパスワード）を本来必要のないところで入力させるような手法もあります。また、フリーソフトやコピーソフトにまぎれてクレジットカード番号や銀行のアカウント情報をスパイするものもあります。日本では、このような問題で、年間、何億円もの被害が出ているようです。被害に遭うとある日突然あなたの預金がワケの分からないところへ振り込みされ残高が０になるのです。（犯罪者側は、相当な儲けですので気合を入れて偽サイトを作るわけです。素人目には分かりません。以下の対策を参考にしてください。）

＜ネットバンキングを行うＰＣは、、、＞
・インターネット等で情報を得る。日本に関する事案・事件は下記の URL で（内容は日本語）
　https://www.jpcert.or.jp/　や　https://www.antiphishing.jp/　などの情報を参考に
・普通のＷｅｂ閲覧に使ったり、お子さんも含め他人には使わせない。
・知人や、お子さんが、面白いゲーム・ツールを持ってきても入れさせない。使わない。
・ウィルス対策ソフトは当然入れておく（ただし過信は禁物）
・ネットバンキングのＵＲＬは自身で入力か、事前にセットしたブックマークから開く
　（メールのリンクなどを利用しないこと。偽メールで偽サイトへ誘導される可能性がある）

＜ＷｉＦｉを使っている方は、セキュリティの確認を！＞
ＷｉＦｉはパスワードを設定可能で、セキュリティを備えていますが、ＷＥＰ暗号では、パスワード解読の恐れがあります。必ずＷＰＡ２を使用して、難しいパスワードを設定してください。（忘れると言う方は、キーボードの裏にパスワードを書いたシールを貼る事も良いです。）
さて、ＷＥＰ設定でパスワードを解読されて無断で使われても、遅くなるだけでしょ？という方もいらっしゃるかもしれません。しかし、ＷｉＦｉ経由でウィルス設置やバンキング情報を盗む可能性は排除できません。（そのようなことを簡単な操作で行うことが出来る裏ツールが広く出回っています。）皆様の設定を「今一度見直してください。」

日本と日本人の七不思議

長崎　節夫

平成 28 年 4 月初頭の日曜日朝 10 時。花の東京・上野駅です。インドネシアの青年ケニー君とデムシー君は上野駅のホームに降り立ったところで、同じ村の先輩ユヌスさんにばったり会いました。

ユヌス先輩は日系三世で３５歳、実家はランゴワン、7 年前から茨城県大洗の水産加工場で働いています。奥さんはビトゥンの日系人で同じ大洗の加工場に共働き、小学 3 年生の長男と１年生の長女がいます。

ケニーとデムシーは 2 年前に技能実習生として日本に入国、茨城県水戸市の建設会社で実習（仕事）に励んでいます。二人とも独身。ランゴワンの実家は野菜とコメ作の農家です。

ふたりは久しぶりの休日で、ちょうど桜が満開の上野公園でジャランジャラン、と上野駅に到着したところで、水戸駅から同じ電車に乗ってきたらしいユヌスさんにばったり会った、というわけです。

ケニー　「ユヌスさん、久しぶりです」
ユヌス　「あれ？　どこかで見たような顔だが、だれだったけ？」
ケニー　「ランゴワンのケニーです。こちらはデムシー」
ユヌス　「おお！　ケニー君にデムシー君、日本に来ていたのか。しばらく見ないうちに立派な青年になったな。今いくつだ？」
ケニー　「28 歳です。もう中年です」
ユヌス　「中年はまだ早いだろう。デムシーも同年か？」
デムシー　「そうです」
ユヌス　「ふたりとも研修生で日本にきたの？」
デムシー　「はい。2 年前にきました。あと１年でランゴワンに帰ります。」
ユヌス　「そうかい。久しぶりだからそこで少し話そうか。時間は大丈夫か」
デムシー　「大丈夫です。上野公園をぶらぶらしに出てきましたから」

3 人は空いているベンチに腰かけた。ケニーは近くの自販機を見つけて立ち上がる。

ケニー　「ユヌスさんは何がいいですか？コーヒーにしますか？」
ユヌス　「あったかいコーヒーがいいな」

ということで、缶コーヒー片手に話の花が咲きました。故郷ランゴワンの話題が続いたあと、ユヌスさんが二人に聞いた。

ユヌス　「ところで、二人とも日本に初めて来て、いろいろ困ったり驚いたりすることがあるだろう？」

デムシー「僕が最初にびっくりしたのは自動販売機です。　会社の寮の前にも自販機が 3 台も置いてあるけど、毎朝それを見るたびに昨夜も無事であったと胸をなでおろしています」（笑）

ユヌス　「（笑いながら）自販機を勝手に持っていく人はいないから心配しない方がいいよ」

ケニー　「でも、自販機がメナドやトモホンの街中に置いてあったら、ジャガーでも付けない限り一晩で完全に消えますよ」

ユヌス　「そうだね。ジャガーを付けても危ないかもね。でもここは日本だから心配しなくていい。しかし、自販機はほんとに便利だね。飲み物だけでなくタバコ、酒、カップヌードル、何でも売っている。」

デムシー「ミナハサの街にも自販機が置けるような時代がきますかね」

ユヌス　「それはどうかな？　でも、いつかそういう時代が来ると思いましょう」

自動販売機談義を繰り広げる 3 人の目の前に、東京方面行きの電車が滑り込んできた。日曜日の昼前、電車はそれほど混んでいない。しばらくして発車のベルが鳴り始めた。黒っぽいスーツを着て鞄を抱えた中年の男性が階段口から飛び出してきて閉まりかけたドアめがけて突進する。残念！1 秒の差で間に合わなかった。それを見てユヌスさんが言った。

ユヌス　「これも日本でしか見えない光景だね。日本人はホームの階段を上る途中で発車のベルが聞こえたら反射的に走りだすようだ。もちろん日本人全員ではないけどね。そんなに急がなくてもすぐ次の電車が来るのに、反射的に走りだすから不思議だよ。」

ケニー　「日本の学校で、ベルが鳴ったら必ず走るようにと訓練しているのかな。昨年の何月だったか、作業現場が小学校のすぐとなりで校庭の様子もよく見えたけど、子供たちを５，６名ずつに分けて、先生がベルを吹いてかけっこをさせていた」

デムシー「それは単にかけっこの練習で、階段を駆け上るための練習ではないと思うよ。でも日本人というのは走ることが好きなのかな。ひと月ほど前に東京マラソンというのをテレビでみたけど、あれは何万人走っていたかな。日本の人口の半分くらいが走っている感じだった」

ケニー　「イベントでなくても、近所の公園では毎日お年寄りも若いお姉ちゃんも結構な人数が走っているね」

ユヌス　「みなさん健康のために走っているそうだけど、マラソン大会などイベントに出るために練習している者もいるでしょう。しかし、公園や大通りで走ること

ができるのも日本だからできることだと思う。インドネシアの通りで走ってみろ、排気ガスで肺がんになるか、野良犬に吼えられるか、ろくなことにはならないよ」

デムシー　「メナドの街など絶対にダメだね。ミクロの排気ガスで窒息するよ」

ケニー　「ランゴワンの道は車が少なくて肺がんのおそれも少ないと思うけど、僕がランゴワンでジョギングしたらオランギラと間違えられると思うね」

ダニー　「ケニーちゃんは日本に行ってアタマがおかしくなって帰ってきた、とメナドの病院に連れていかれるよ。」

ユヌス　「病院に連れていかれて入院でもしたらそれこそ家も田んぼも売り飛ばさねばならない。ビトゥンの知り合いが乳がんにかかって、手術費用がなくてモタモタしている間に手遅れになって亡くなってしまった。まだ若かったのに可哀想なことになった。

日本には国民健康保険の制度があるから、貧乏人でも気軽に病院で治療を受けられる。インドネシアでは病院などの医療施設が不十分でお粗末。おまけに国民健康保険の制度もないから、病院に行きたくても行けない人がバニャックだ。　ところで、君たちの会社も医療保険はきちんとしているだろう？」

デムシー　「はい、いつ病気になっても怪我をしても大丈夫です。」

ユヌス　「保険があるからと病気や怪我していいことはないけどね。でも日本の健康保険の制度はうらやましいよ。」

デムシー　「ところで、ユヌスさんは今、どんなビザですか？　日系人としての定住ビザですか？」

ユヌス　「定住ビザだ。10 年以上日本に居たら永住ビザがもらえるらしいから、あと 3 年がんばって永住ビザに換えるつもりだ。ランゴワンに帰ってもまともな仕事はないしね」

デムシー　「日系人でなくても 10 年以上日本で働いたら永住ビザがもらえるだろうか」

ユヌス　「よくわからないができると思うよ。ただし、研修生は 3 年契約だからあと 7 年をどうするかだ。しかし、最近職場で聞いたけど、研修生も 5 年制になるとか、5 年終わったあとでも再び研修生として入れるとか、日本の法律も変わるそうだよ」

ケニー　「ほんとですか！そうなったらいいな。よし、僕も 10 年がんばって日本人になろう」

ユヌス　「そのためにはまず、今の仕事を毎日真面目にがんばって、社長や周りの人にしっかり認めてもらうことだ。さて、俺はこれから買い物だ。君たちの携帯番号をおしえてくれ。また会いましょう」

ということで今回の上野駅対談は終わります。次回は 6 か月後、場所を変え、登場人物も新たに加えての対談になる予定です。（第１部　完）

編集後記

15年ほど前のことですが、友人（日本人）がマララヤンの国立（州立？）病院に入院したので見舞いに行ったことがあります。病院の敷地に入って少し驚いたのは、病院の庭のそこかしこで患者の家族が煮炊きをしていることでした。病室内の患者の世話ももちろん家族の役目です。経済的に少し余裕のある患者は専門の付き人を雇っていました。友人も付き人を雇っていました。白衣を着た、一見看護師に見える若い女性が部屋にいて、最初は担当の看護師かと思いましたが、日当で雇っているとのことでした。

友人は肘の小さな傷の化膿がもとで意識不明の重症になり病院に担ぎこまたのですが、幸いに全快・退院となりました。退院に際しての病院の会計が外国人基準でなされたようで、仲間内で話題になりました。

あれから15年、メナドの街の様相はかなり変わりましたが、マララヤンの病院中庭の光景も少しは変わっているだろうか。

会員のみなさん周知のとおり、春奈さんのご主人が残念なことになりました。突然のことで、残された春奈さんもまだ納得ができていない部分もあるだろうと察します。

当地の医療の実情については、会員の皆様それぞれ話のタネをいっぱい持っていることですが、今回は代表して中村さんに語ってもらいました。

今年に入ってからコンビニが急激に増えました。メナド海岸沿いのショッピングモール建設ブームが一段落したと思ったら、今度はコンビニの出現です。世の中がかなりダイナミックに変化していることを実感します。私たちはこれに似たような世の中の動きをすでに日本で見ていますが、インドネシアの場合は変化のスピードが早く、早送りのビデオを見ている感じがします。

ショッピングモール出現に続くコンビニ店の増殖は、商業の世界では来るべきものが来たと言うところでしょう。続いてこれから起こるであろう零細小売業者の淘汰も、何となく予想できる気がします。

コンビニ出現は下村さんに文明の香りを運んできたようです。編集子も、明らかに日本のコンビニをモデルにしたと見えるインドマートやアルファマートの、明るく清潔な店内を見るたびに北スラウェシの文明開化を感じとっています。さっそくですが、下村さんに新登場のコンビニについてレポートしていただきました。

下村さんは北スラウェシ版コンビニの現状について特記事項を5点挙げていますが、編集子も悪乗りして4点あげてみます。

① 飲み物ケースの中にビールが見えない。②トイレがない。③コンビニ弁当がない。④コピー機がない。

ないない4点です。「ある」と変わるのにあと何年かかるでしょうか。

北スラウェシ大好きの才媛、高倉清香さんの登場です。専門は地質学（火山灰？）。専門分野だけでなく新鮮な話がいっぱい出てきそうです。どうぞよろしくお願いいたします。

江田さんにはバリ島からフルーツ便りを送っていただきました。原稿を受信したパソコンからフルーツの香りが立ち上がってきました。バリ島にいつまでいるかわかりませんが、滞在中は毎号にバリ島便りを送るという約束です。

コンピューター技師・中村さんの報告にはいつも驚かされます。私たちが普段関知できない世界の情報を突然目の前に提示されます。次は何が出てくるか。
パソコン講座、今回は「インターネット速度改善の方法」です。各号の講座テーマは皆さんの要望に応じるそうです。パソコンに関する個人的な問題も遠慮なく質問してください。

真珠屋の今泉さんがついに真珠について語りだしました。神秘的な真珠の世界、まだナゾの部分もいっぱいあるようですが、汚染された環境では絶対に成り立たない仕事です。養殖場の環境保全が第一、と感じます。話のタネはまだいっぱいあると思います。次号以降も楽しみにしています。
大貫さんは最近ドサまわりが多くなって腰が落ち着きません。これは水商売（魚関連の仕事）の宿命で仕方がありません。お体に気を付けてがんばってください。今回は日本人の目でインドネシア（ビトン）について語ってもらいました。
大貫さんに刺激されてか、長崎さんはインドネシア人の目で日本と日本人について書きました。続きがあるそうです。

表紙はいつもの通り羽根井さん。戦後 70 年を記念する表紙は日本人墓地（ビトゥン）です。墓地建設に尽力された石野さん、青山さんはじめ（株）りんかいの皆様、渡辺総領事様、沖縄の墓地整備期成会の仲間たち、あらためて感謝いたします。ありがとうございました。

（長崎）

会員名簿

会報「タルシウス」電子版では不特定多数の方が閲覧するため、

セキュリティ上の観点より会員名簿は非公開とすることとしました。

（2014 年 04 月 20 日）

上記理由により会員名簿が非公開になりましたことをご了承ください。

●会報タルシウス（製本版）には従来通り名簿は掲載されます。

●各会員に対しましての個別の、または、尋ね人などのお問い合わせは、

直接日本人会へお問い合わせください。

該当会員に連絡後、会員より直接連絡するか該当会員の同意のもとで、

連絡先をお知らせすることといたします。